大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告書　第47集

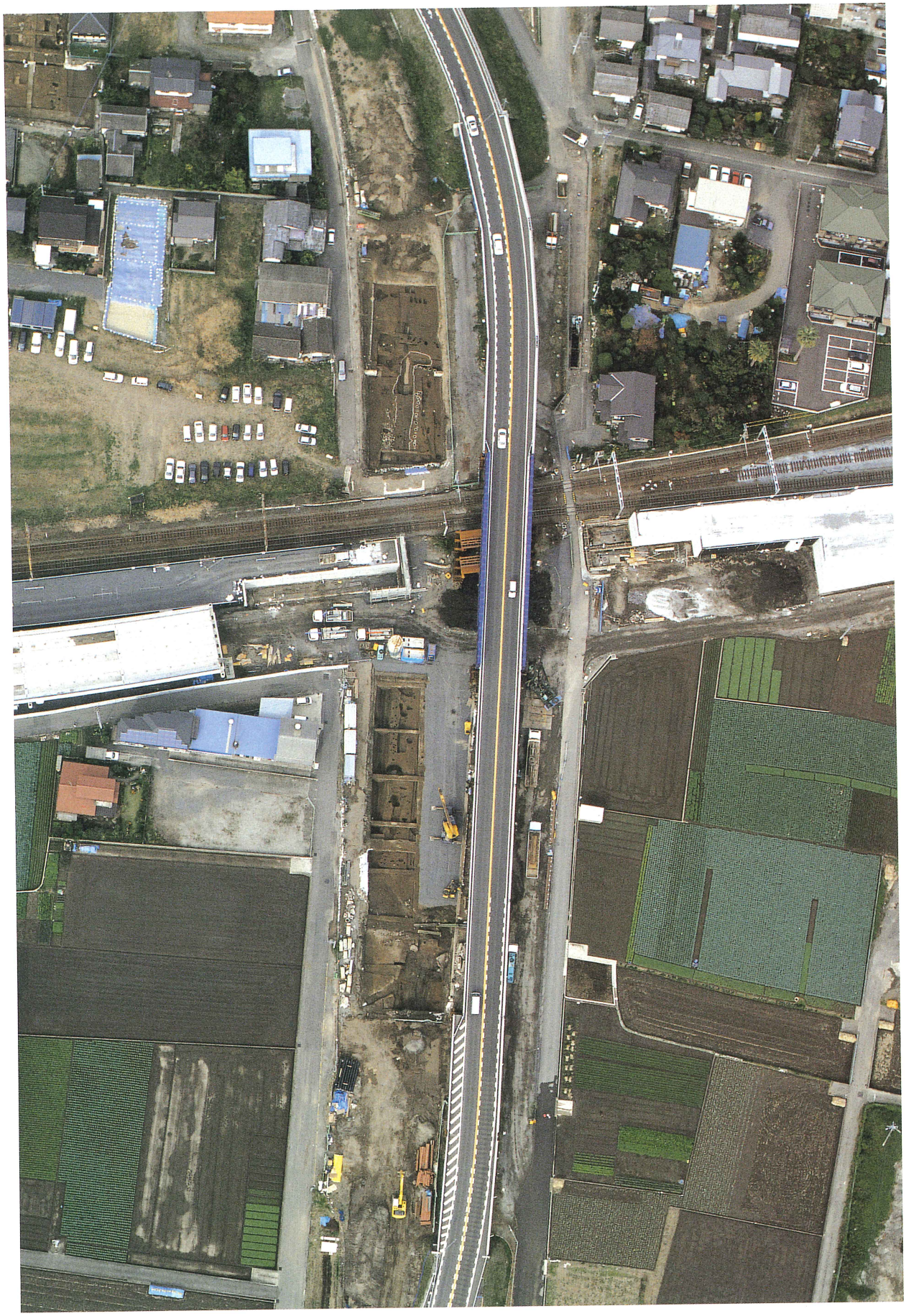
豊　後　府　内　15

中世大友府内町跡第49・51・52・67・78・79次調査

一般国道10号古国府拡幅事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(7)

２０１０

大分県教育庁埋蔵文化財センター



中世大友府内町跡第51・52次調査区全景

中世大友府内町跡第51次調査区全景

中世大友府内町跡第52次調査区全景

彫三島出土状態

彫三島茶碗

中世大友府内町跡第51次調査彫三島茶碗出土状況

序　　文

本書は、大分県教育委員会が、国土交通省大分河川国道事務所の依頼を受けて実施した国道10号古国府拡幅事業に伴う中世大友府内町跡の発掘調査報告書です。

遺跡の所在する大分市は、古代に国府が置かれて以来、豊後国･大分県の政治･経済の中心地としての役割を果たしてきました。特に、戦国時代には、「府内」と呼ばれ、豊後国の領主であった大友氏の本拠地として、南蛮貿易やキリスト教の日本布教の拠点となるなど、日本の中世都市の中でも、特異な存在でした。

本書に報告する中世大友府内町跡の調査は、大友館跡の前面について実施したもので戦国時代の「府内」のメインストリートの規模と構造を明らかにすることができました。また当時、九州最大級の禅宗寺院であった万寿寺が堀で囲まれていたこともわかり、堀からは多量の備前焼のやきものが出土し、瀬戸内海航路を利用した活発な交流を知ることがきました。

本書が埋蔵文化財に対する保護・啓発、さらには学術研究の一助として活用されれば幸いです。

最後に、この発掘調査に多大な御支援と御協力をいただきました関係各位に対し衷心から感謝申し上げます。

平成22年3月31日

大分県教育庁埋蔵文化財センター
所長　佐藤英一

例　　言

1．本書は、大分市元町に所在する中世大友府内町跡第49・51・52・67・78・79次調査の発掘調査報告書である。

2．発掘調査は一般国道10号古国府拡幅事業の実施に伴い、国土交通省九州地方整備局大分河川国道事務所の委託を受けて、大分県教育委員会が実施した。

3．中世大友府内町跡第49・51・52・67・78・79次調査は、平成17年3月から平成19年3月にかけて実施した。

4．現地での写真撮影・遺構の実測は調査担当者が行った。ほか、中世大友府内町跡第51次調査は明大工業、67次調査は九州文化財リサーチ、78・79次調査は大成エンジニアリング株式会社の調査支援委託を受けた。

5．遺物実測・トレースなど報告書作成に伴う諸作業については、埋蔵文化財センター文化財発掘調査員並びに大分県教育庁埋蔵文化財センターの整理作業員の協力を得た。

6．出土遺物ならびに図面・写真等は、大分県教育庁埋蔵文化財センター（大分市大字中判田ビワノ門1977）において保管している。

7．本書で使用する方位はいずれも座標北である。座標値については、旧日本測地系の数値を記している。

8．本書で使用する遺構略号は、以下の通りとする。

SD：溝、SK：土坑、SE：井戸、SF：街路、：SP：柱穴および小穴、SX：その他の遺構（不明遺構・集石遺構・焼土層・整地層など）

9．本書で使用した出土遺物の分類については、以下の文献による。

青花　小野正敏「15～16世紀の染付碗・皿の分類と年代」（『貿易陶磁研究』№2　1982年）

青磁　上田秀夫「14～16世紀の青磁碗の分類について」（『貿易陶磁研究』№2　1982年）

白磁　森田　勉「14～16世紀の白磁の分類について」（『貿易陶磁研究』№2　1982年）

備前系陶器

乗岡　実「中世備前焼甕（壷）の編年案」・「備前焼擂鉢の編年案」（『第3回中近世備前焼研究会資料　付第1回・第2回研究資料』所収　2000年）

中国南部産焼締陶器鉢

吉田　寛「中世大友府内町跡出土の産地不明焼締陶器について」（『貿易陶磁研究』№28　2003年）

京都系土師器および土師質土器

塩地潤一「九州出土の京都系土師器皿」（『中近世土器の基礎研究』XIV、1999年）

坂本嘉弘「中世大友府内町跡出土の土師質土器編年」（『豊後府内2』大分県教育庁埋蔵文化財（センター調査報告書第2集　2005年）

吉備系土師器碗

山本悦代「吉備系土師器椀の成立と展開」（『鹿田遺跡－第5次調査－（医学部および同付属病院管理棟新設予定地）』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第6冊　岡山大学埋蔵文化財調査研究センター　1993年）

10．本書の執筆・編集は坂本嘉弘・吉田寛が行った。なお、執筆分担は下記のとおりである。

坂本嘉弘　第1章・第2章・第3章第1節・同第2節・第4章

吉田寛　　第3章第3節～第8節

目　　次

序文

例言

第１章　はじめに
第１節　調査に至る経過…… 1
第２節　調査の経過…… 1
第３節　調査組織の構成…… 2
第４節　報告書作成にあたって…… 4
１　府内古図と街路の名称…… 4
２　本書の調査区の位置…… 7

第２章　遺跡の立地と環境
第１節　地理的環境…… 8
第２節　歴史的環境…… 9

第３章　調査の方法と成果
第１節　中世大友府内町跡第 49 次調査 …… 11
１．調査の概要…… 11
２．遺構と遺物…… 11
(1) 遺構 …… 11
(2) 遺物 …… 14
３．小結…… 14
第２節　中世大友府内町跡第 51 次調査 …… 15
１　調査の概要…… 15
２　北部地区の遺構と遺物…… 20
(1) 第１面…… 20
(2) 第２面…… 24
(3) 第３面…… 24
(4) 第４面…… 25
(5) 第５面…… 26
３　南部地区の遺構と遺物…… 35
(1) 街路…… 35
(2) 溝…… 40
(3) 土坑……109
(4) 井戸 ……164
(5) 柱穴状遺構……169
(6) 集石……173
(7) 焼土……186
(8) 塼囲遺構……199
(9) 町屋整地層……203
(10) 遺物包含層……206
４　小　結……217
第３節　中世大友府内町跡第 52 次調査
１　調査の概要……219
２　遺構と遺物……219
(1) 遺構の概要と基本層序列……219
(2) 16 世紀末葉～ 17 世紀初頭の遺構・遺物 ……226
(3) 16 世紀後葉・16 世紀末葉の遺構・遺物 ……233
(4) 16 世紀前葉～中葉の遺構・遺物 ……253
(5) 14 世紀の遺構・遺物 ……256
(6) 包含層・整地層の出土遺物……264
３　小結……271

第４節　中世大友府内町跡第 67 次調査Ａ区
1　調査の概要……275
2　遺構と遺物……280
(1) 遺構の概要と基本層序……280
(2) 上層遺構群……280
(3) 下層遺構群……289
3　小結……291
第５節　中世大友府内町跡第 67 次調査Ｂ区
1　調査の概要……293
2　遺構と遺物……295
(1) 基本層序と遺構群……295
(2) 遺構と遺物の概要……297
(3) 小結……309
第６節　中世大友府内町跡第 67 次調査Ｃ区
1　調査の概要……311
2　遺構と遺物……317
(1) 調査の概要と基本層序……317
(2) 土坑……318
(3) 井戸……329
(4) 大甕埋設遺構……331
(5) 集石遺構・石列……333
(6) 炉跡関連遺構……338
(7) 土器集中部……339
(8) 柱穴など……342
(9) 包含層・整地層出土遺物……347
3　小結……349
第７節　中世大友府内町跡第 78 次調査
1　調査の概要……351
2　遺構と遺物……353
(1) 遺構の概要と基本層列……353
(2) 溝……354
(3) 土坑……355
(4) 炉跡関連遺構……356
(5) 柱穴……357
(6) 土器溜め……357
(7) 第２南北街路……358
3　小結……358
第８節　中世大友府内町跡第 79 次調査
1　調査の概要……361
2　遺構と遺物……363
(1) 遺構の概要と基本層列……363
(2) 溝……368
(3) 柱穴・柱穴列……369
(4) 第２南北街路……370
(5) 遺構外（包含層・整地層）の出土遺物……373
3　小結……374

第４章　総　括
第１節　豊後府内出土の彫三島茶碗について……375
第２節　大友館周辺の遺構の変遷と歴史的背景……378
1　大友館周辺……378
2　万寿寺北西部……379
3　検出された遺構の変遷と歴史的背景……379

遺物観察表……381
写真図版……433
報告書抄録……465

挿図目次

第１章
第１図　中世大友府内町跡発掘調査状況…… 3
第２図　「府内古図」トレース図 …… 4

第２章
第４図　中世大友城下町跡と周辺の戦国時代遺跡 …… 8

第３章　第１節　府内町跡 49 次調査
第６図　府内町跡第 49 次調査遺構配置図 … 11
第７図　府内町跡第 49 次調査出土遺物① … 12

第３章　第２節　中世大友府内町跡第 51 次調査
第９図　府内町跡第 51 次調査区位置図 …… 15
第 10 図　SD033・034 出土遺物実測図 …… 20
第 11 図　SK039 実測図…… 20
第 12 図　府内町跡第 51 次調査北部地区第１面遺構配置図…… 20
第 13 図　府内町跡 51 次北部地区土層断面図…… 21
第 14 図　SX041 実測図…… 22
第 15 図　SX040 出土遺物実測図①…… 23
第 16 図　SX040出土遺物実測図② …… 22
第 17 図　府内町跡第 51 次調査北部地区第２面遺構配置図…… 24
第 18 図　府内町跡第 51 次調査北部地区第３面遺構配置図…… 24
第 19 図　SK065 実測図…… 25
第 20 図　SK053 実測図…… 25
第 21 図　府内町跡第 51 次調査北部地区第４面遺構配置図…… 25
第 22 図　SK036 実測図…… 26
第 23 図　SK048 実測図…… 26
第 24 図　府内町跡第 51 次調査北部地区第５面遺構配置図…… 26
第 25 図　SK049 出土遺物実測図…… 27
第 26 図　SK036 出土遺物実測図…… 27
第 27 図　SK050 実測図…… 28
第 28 図　SK036 出土遺物実測図…… 28
第 29 図　SK052 実測図…… 29
第 30 図　SK039・042・047・048・049・050・051・052 出土遺物実測図 …… 30
第 31 図　SK057・061・062・064・065 出土遺物実測図…… 31
第 32 図　SE070 実測図…… 32
第 33 図　SK080 実測図…… 33
第 34 図　SK076・080 出土遺物実測図 …… 33
第 35 図　SK063・SK070 出土遺物実測図 …… 34
第 36 図　SF012 出土遺物実測図①…… 36
第 37 図　SF012 出土遺物実測図②…… 37
第 38 図　SF012 出土遺物実測図③…… 38
第 39 図　SF012 実測図④…… 39
第 40 図　SF012 出土遺物実測図⑤…… 40
第 41 図　SF012 出土銅銭実測図⑥…… 41
第 42 図　SD060 出土遺物実測図①…… 42
第３図　府内町跡 49・51・67・78・79 次調査区位置図…… 7
第５図　中世大友城下町跡と周辺の遺跡…… 10
第８図　府内町跡第 49 次調査出土遺物② … 13
第 43 図　SD060 実測図②…… 43
第 44 図　SD060 出土遺物実測図③…… 44
第 45 図　SD060 出土遺物実測図④…… 45
第 46 図　SD060 出土遺物実測図⑤…… 46
第 47 図　SD060 出土遺物実測図⑥…… 46
第 48 図　SD060 出土遺物実測図⑦…… 47
第 49 図　SD200 遺物出土状態…… 48
第 50 図　Ｉ -40 東西方向断面図 …… 48
第 51 図　SD200 出土遺物実測図①…… 49
第 52 図　SD200 出土遺物実測図②…… 50
第 53 図　SD200 出土遺物実測図③…… 51
第 54 図　SD200 出土遺物実測図④…… 52
第 55 図　SD200 出土遺物実測図⑤…… 53
第 56 図　SD200 出土遺物実測図⑥…… 54
第 57 図　SD200 出土遺物実測図⑦…… 55
第 58 図　SD200 出土遺物実測図⑧…… 56
第 59 図　SD200 出土遺物実測図⑨…… 58
第 60 図　SD200 出土遺物実測図⑩…… 59
第 61 図　SD200 出土遺物実測図⑪…… 60
第 62 図　SD200 出土遺物実測図⑫…… 61
第 63 図　SD200 出土遺物実測図⑬…… 62
第 64 図　SD200 出土遺物実測図⑭…… 63
第 65 図　SD200 出土遺物実測図⑮…… 64
第 66 図　SD200 出土遺物実測図⑯…… 65
第 67 図　SD200 出土遺物実測図⑰…… 66
第 68 図　SD200 出土遺物実測図⑱…… 67
第 69 図　SD200 出土遺物実測図⑲…… 68
第 70 図　SD200 出土遺物実測図⑳…… 69
第 71 図　SD200 出土遺物実測図㉑…… 70
第 72 図　SD200 出土遺物実測図㉒…… 71
第 73 図　SD200 出土遺物実測図㉓…… 72
第 74 図　SD200 出土遺物実測図㉔…… 73
第 75 図　SD200 出土遺物実測図㉕…… 74
第 76 図　SD200 出土遺物実測図㉖…… 75
第 77 図　SD200 出土遺物実測図㉗…… 76
第 78 図　SD200 出土遺物実測図㉘…… 77
第 79 図　SD200 出土遺物実測図㉙…… 78
第 80 図　SD200 出土遺物実測図㉚…… 79
第 81 図　SD200 出土遺物実測図㉛…… 80
第 82 図　SD200 出土遺物実測図㉜…… 81
第 83 図　SD200 出土遺物実測図㉝…… 82
第 84 図　SD200 出土遺物実測図㉞…… 83

第 85 図　SD200 出土遺物実測図㉟…… 84
第 86 図　SD200 出土遺物実測図㊱…… 85
第 87 図　SD200 出土遺物実測図㊲…… 86
第 88 図　SD200 出土遺物実測図㊳…… 87
第 89 図　SD200 出土遺物実測図㊴…… 88
第 90 図　SD200 出土遺物実測図㊵…… 89
第 91 図　SD200 出土遺物実測図㊶…… 90
第 92 図　SD275・276 実測図 …… 91
第 93 図　SD232・276・304出土遺物実測図 …… 92
第 94 図　SD304 の一部実測図…… 93
第 95 図　SD304 側面図及び断面図…… 94
第 96 図　SD304・314・332・349・354出土遺物実測図…… 95
第 97 図　SD357 出土遺物実測図…… 96
第 98 図　SD363 出土遺物実測図①…… 97
第 99 図　SD363 出土遺物実測図②…… 98
第 100 図　SD363 出土遺物実測図③…… 99
第 101 図　SD363 出土遺物実測図④…… 100
第 102 図　SD363 出土遺物実測図⑤…… 101
第 103 図　SD363 出土遺物実測図⑥…… 102
第 104 図　SD363 出土遺物実測図⑦…… 103
第 105 図　SD363 出土遺物実測図⑧…… 104
第 106 図　SD370・SP383 実測図 …… 105
第 107 図　SD397 実測図…… 105
第 108 図　SD462 及び出土遺物実測図…… 106
第 109 図　SD446・462・483・495・499出土遺物実測図…… 107
第 110 図　SD463・519・557・562・563・566・SF447出土遺物実測図…… 108
第 111 図　SK001・003・005・006・008・009・010出土遺物実測図…… 110
第 112 図　SP013・SD014・SK020・022出土遺物実測図…… 111
第 113 図　SK215 実測図…… 113
第 114 図　SK221 実測図…… 113
第 115 図　SK225 実測図…… 113
第 116 図　SK226 実測図…… 113
第 117 図　SK207・208・215・221・225・226・229出土遺物実測図…… 114
第 118 図　SK234 実測図…… 115
第 119 図　SK224・234・235・236 出土遺物実測図…… 116
第 120 図　SK235 実測図…… 117
第 121 図　SK236 実測図…… 117
第 122 図　SK237 実測図…… 118
第 123 図　SK237・239・240・245・246・247出土遺物実測図…… 119
第 124 図　SK239 実測図…… 120
第 125 図　SK240 実測図…… 120
第 126 図　SK241 実測図…… 121
第 127 図　SK245 実測図…… 121
第 128 図　SK246 実測図…… 121
第 129 図　SK256 実測図…… 122
第 130 図　SK257 実測図…… 122
第 131 図　SK270 実測図…… 122
第 132 図　SK241・249・250・253・257・307・308出土遺物実測図…… 123
第 133 図　SK311 実測図…… 124
第 134 図　SK319・487 実測図 …… 124
第 135 図　SK352・359 実測図 …… 125
第 136 図　SK353 実測図…… 125
第 137 図　SK355 実測図…… 126
第 138 図　SK356 実測図…… 126
第 139 図　SK360 実測図…… 127
第 140 図　SK309・319・353・356・359・360・361出土遺物実測図…… 128
第 141 図　SK361・362 実測図 …… 129
第 142 図　SK388 実測図…… 130
第 143 図　SK409 遺物出土状況実測図…… 130
第 144 図　SK410 実測図…… 130
第 145 図　SK415 実測図…… 130
第 146 図　SK410 出土銅銭実測図①…… 131
第 147 図　SK410 出土銅銭実測図②…… 132
第 148 図　SK410 出土銅銭実測図③…… 133
第 149 図　SK422 実測図…… 134
第 150 図　SK429 実測図…… 134
第 151 図　SK430 実測図…… 135
第 152 図　SK431 実測図…… 135
第 153 図　SK388・404・411・412・415・429・430・431出土遺物実測図 …… 136
第 154 図　SK422出土遺物実測図 …… 137
第 155 図　SK434 実測図…… 138
第 156 図　SK438 実測図…… 138
第 157 図　SK457・458 実測図 …… 138
第 158 図　SK466 実測図…… 139
第 159 図　SK438・465・466・469・470出土遺物実測図…… 140
第 160 図　SK479 実測図…… 141
第 161 図　SK471 実測図…… 141
第 162 図　SK480 実測図…… 142
第 163 図　SK481 実測図…… 142
第 164 図　SK471・474・475・476・477・478・479・480・481・482出土遺物実測図 …… 143
第 165 図　SK485・486 実測図 …… 144
第 166 図　SK490 実測図…… 144
第 167 図　SK496 実測図…… 145
第 168 図　SK497 実測図…… 145
第 169 図　SK498 実測図…… 145
第 170 図　SK485・486・487・489・490・491・493・496・497・498・500・501・502出土遺物実測図…… 146
第 171 図　SK505 実測図…… 147
第 172 図　SK506 実測図…… 147
第 173 図　SK507 実測図…… 148
第 174 図　SK505・506・507出土遺物実測図 …… 149
第 175 図　SK508 実測図…… 150
第 176 図　SK511 実測図…… 151
第 177 図　SK508・509・510・512・513・514出土遺物実測図…… 152
第 178 図　SK520 実測図…… 153
第 179 図　SK516・517・520・521・533出土遺物実測図…… 154

第 180 図　SK538 実測図…… 155
第 181 図　SK533 出土遺物実測図①…… 156
第 182 図　SK533 出土遺物実測図②…… 157
第 183 図　SK533・550・551・552出土遺物実測図…… 158
第 184 図　SK550・551・552・553実測図 …… 159
第 185 図　SK553・554 出土遺物実測図 …… 160
第 186 図　SK544 実測図…… 161
第 187 図　SK558 実測図…… 162
第 188 図　SK558・560 出土遺物実測図 …… 162
第 189 図　SK576 実測図…… 163
第 190 図　SK568・570・575・576・581出土遺物実測図…… 163
第 191 図　SE201 実測図…… 164
第 192 図　SE201 出土遺物実測図…… 165
第 193 図　SE310 実測図…… 166
第 194 図　SE453 実測図…… 167
第 195 図　SE310・453出土遺物実測図 …… 168
第 196 図　SP266 実測図…… 169
第 197 図　SP375 実測図…… 169
第 198 図　SP556 実測図…… 169
第 199 図　柱穴遺構出土遺物実測図…… 170
第 200 図　柱穴遺構出土遺物 …… 171
第 201 図　SP556 出土遺物実測図…… 172
第 202 図　SX204 実測図…… 173
第 203 図　SX206 実測図…… 173
第 204 図　204・206 出土遺物実測図 …… 174
第 205 図　SX204・206 出土遺物実測図 …… 175
第 206 図　SX206 出土遺物実測図…… 176
第 207 図　SX206 出土遺物実測図…… 177
第 208 図　SX277 実測図…… 178
第 209 図　SX320 実測図…… 178
第 210 図　SX461 実測図…… 179
第 211 図　SX277・311・320・461出土遺物実測図…… 180
第 212 図　SX230 実測図…… 181
第 213 図　SX408 実測図…… 181
第 214 図　SX421 実測図…… 181
第 215 図　SX440 実測図…… 182
第 216 図　府内町跡51次調査 SX441実測図 …… 183
第 217 図　SX442 実測図…… 184
第 218 図　SX534 実測図…… 184
第 219 図　SX230・408・421・440・441・442・518・534 出土遺物実測図 …… 185
第 220 図　SX202 出土遺物実測図①…… 187
第 221 図　SX202 出土遺物実測図②…… 188
第 222 図　SX202 出土遺物実測図③…… 189
第 223 図　SX202 出土遺物実測図④…… 190
第 224 図　SX202 出土遺物実測図⑤…… 191
第 225 図　SX202 出土遺物実測図⑥…… 192
第 226 図　SX202 出土遺物実測図⑦…… 193
第 227 図　SX214 出土遺物実測図…… 194
第 228 図　SX214 出土遺物実測図…… 195
第 229 図　SX258 遺物出土状況実測図…… 196
第 230 図　SX258 出土遺物実測図 …… 197
第 231 図　SX348 遺物出土状態実測図…… 198
第 232 図　SX348・409・420出土遺物実測図…… 198
第 233 図　SX203 実測図…… 199
第 234 図　SX203 出土遺物実測図①…… 200
第 235 図　SX203 出土遺物実測図②…… 201
第 236 図　SX203 出土遺物実測図③…… 202
第 237 図　SX345 出土遺物実測図…… 204
第 238 図　SX345・358出土遺物実測図 …… 205
第 239 図　包含層出土遺物実測図①…… 207
第 240 図　包含層出土遺物実測図②…… 208
第 241 図　包含層出土遺物実測図③…… 209
第 242 図　包含層出土遺物実測図④…… 210
第 243 図　包含層出土遺物実測図⑤…… 211
第 244 図　包含層出土遺物実測図⑥…… 212
第 245 図　包含層（Ⅰ－40）出土遺物実測図⑦… 213
第 246 図　包含層出土銅銭実測図⑧…… 214
第 247 図　包含層出土銅銭実測図⑨…… 215
第 248 図　包含層出土銅銭実測図⑩…… 216
第 249 図　府内町跡第 51 次調査 16 世紀後半主要遺構変遷図 …… 218

第３章　第３節　中世大友府内町跡第 52 次調査

第 250 図　調査区位置図 (1/1,000) …… 219
第 251 図　完掘した遺構・地点…… 220
第 252 図　第 52 次調査遺構配置図 …… 221
第 253 図　調査区北壁土層実測図…… 224
第 254 図　調査区土層実測図…… 225
第 255 図　16 世紀末葉～ 17 世紀初頭の遺構 … 226
第 256 図　SX016・SX017 実測図 …… 227
第 257 図　SX016 出土遺物実測図…… 228
第 258 図　SX017 出土遺物実測図…… 229
第 259 図　SX018 実測図…… 230
第 260 図　SX019 実測図…… 231
第 261 図　SX019 出土遺物実測図…… 232
第 262 図　柱穴出土遺物実測図…… 232
第 263 図　16世紀末葉・16世紀後葉の遺構 …… 233
第 264 図　SF012 出土遺物実測図①…… 235
第 265 図　SF012 出土遺物実測図②…… 236
第 266 図　SF012 出土遺物実測図②…… 237
第 267 図　SD059 出土遺物実測図…… 238
第 268 図　SD060 出土遺物実測図①…… 239
第 269 図　SD060 出土遺物実測図②…… 240
第 270 図　SD061 出土遺物実測図…… 241
第 271 図　SD068 出土遺物実測図…… 241
第 272 図　SD068・SD070 土層実測図 …… 242
第 273 図　SD070 出土遺物実測図…… 242
第 274 図　SD061・SD072 土層実測図 …… 243
第 275 図　SD072 出土遺物…… 243
第 276 図　SK020 実測図…… 244
第 277 図　SK021 実測図…… 244
第 278 図　SK021 出土遺物実測図①…… 245
第 279 図　SK021 出土遺物実測図②…… 246
第 280 図　SK015 実測図…… 247
第 281 図　SK015 出土遺物実測図…… 247
第 282 図　SK023 実測図…… 247
第 283 図　SK024 実測図…… 247

第 284 図　SK026 出土遺物実測図…… 248
第 285 図　SK026 － 1 ～ 5 ･SK034 実測図 …… 249
第 286 図　大型柱穴列および柱穴列（柵列）
実測図…… 250
第 287 図　大型柱穴列出土遺物実測図…… 251
第 288 図　SP010 出土遺物実測図…… 252
第 289 図　SX001 出土遺物実測図…… 252
第 290 図　16 世紀前葉～中葉の遺構 …… 253
第 291 図　SK025・SK030・SK031・SK032・
SK033 実測図…… 254
第 292 図　SK025・SK030・SK032・SK033
出土遺物実測図…… 255
第 293 図　14 世紀の遺構 …… 256
第 294 図　SK074 実測図…… 256
第 295 図　SK074 出土遺物実測図①…… 257
第 296 図　SK074 出土遺物実測図②…… 258
第 297 図　SK074 出土遺物実測図③…… 259
第 298 図　SK074 出土遺物実測図④…… 260
第 299 図　SD069 実測図…… 261
第 300 図　SD069 出土遺物実測図…… 261
第 301 図　SX073 実測図…… 262
第 302 図　SX073 出土遺物実測図…… 263
第 303 図　SD042 出土遺物実測図…… 263
第 304 図　包含層・整地層出土遺物実測図①… 264
第 305 図　包含層・整地層出土遺物実測図②… 265
第 306 図　包含層・整地層出土遺物実測図④… 266
第 307 図　包含層・整地層出土遺物実測図③… 267
第 308 図　包含層・整地層出土遺物実測図⑤… 269
第 309 図　包含層・整地層出土遺物実測図⑥… 270
第 310 図　第 52 次調査区遺構変遷図① …… 273
第 311 図　第 52 次調査区遺構変遷図② …… 274

第３章　第４節　中世大友府内町跡第 67 次調査 A 区

第 312 図　調査区位置図…… 275
第 313 図　第 67 次調査 A 区遺構配置図…… 276
第 314 図　第 67 次 A 調査区土層実測図…… 278
第 315 図　第 67 次 A 調査区土層実測図…… 279
第 316 図　SX001・SD002 実測図 …… 281
第 317 図　SX001 周辺出土遺物実測図…… 281
第 318 図　柱穴列・SP046 実測図 …… 282
第 319 図　柱穴出土遺物実測図…… 283
第 320 図　SX034 出土遺物実測図…… 284
第 321 図　SX034 実測図…… 284
第 322 図　SD030 出土遺物実測図…… 285
第 323 図　SF012 出土遺物実測図①…… 287
第 324 図　SF012 出土遺物実測図②…… 288
第 325 図　SF012 出土遺物実測図③…… 289
第 326 図　SD202 実測図…… 290
第 327 図　SK050・SK051 実測図…… 290
第 328 図　第 67次調査 A区と第 9 次調査Ⅲ区の
短冊形地割りと礎石…… 291

第３章　第５節　中世大友府内町跡第 67 次調査 B 区

第 329 図　調査区位置図…… 293
第 330 図　第 67 次 B 調査区遺構配置図① …… 294
第 331 図　第 67 次 B 調査区遺構配置図② …… 295
第 332 図　SX057 出土遺物実測図…… 296
第 333 図　SX058 出土遺物実測図…… 297
第 334 図　SX070 実測図…… 297
第 335 図　SX070 出土遺物実測図…… 298
第 336 図　柱穴列実測図…… 299
第 337 図　柱穴列出土遺物実測図…… 300
第 338 図　SK073･SD078 土層実測図 …… 300
第 339 図　SK073 出土遺物実測図…… 301
第 340 図　SD078 出土遺物実測図①…… 302
第 341 図　SD078 出土遺物実測図②…… 303
第 342 図　K25・26 区焼土層出土遺物実測図… 304
第 343 図　包含層・整地層出土遺物実測図①… 305
第 344 図　包含層・整地層出土遺物実測図②… 306
第 345 図　包含層・整地層出土遺物実測図③… 307
第 346 図　包含層・整地層出土遺物実測図④… 308
第 347 図　第 67 次調査 B 区周辺の主要遺構
（16 世紀前葉～中葉） …… 309

第３章　第６節　中世大友府内町跡第 67 次調査 C 区

第 348 図　調査区位置図…… 311
第 349 図　第 67次 C調査区遺構配置図① …… 312
第 350 図　第 67次 C調査区遺構配置図② …… 313
第 351 図　調査区土層実測図…… 316
第 352 図　調査区東壁土層実測図…… 317
第 353 図　SK152 実測図…… 318
第 354 図　SK152 出土遺物実測図①…… 318
第 355 図　SK152 出土遺物実測図②…… 319
第 356 図　SK170 実測図…… 319
第 357 図　SK170 出土遺物実測図①…… 320
第 358 図　SK170出土遺物実測図② …… 321
第 359 図　SK170 出土遺物実測図③…… 322
第 360 図　SK180 出土遺物実測図…… 323
第 361 図　SK183 実測図…… 324
第 362 図　SK183 出土遺物実測図…… 324
第 363 図　SK191 実測図…… 325
第 364 図　SK191 出土遺物実測図…… 325
第 365 図　SK208 実測図…… 326
第 366 図　SK208 出土遺物実測図…… 326
第 367 図　SK209 実測図…… 326
第 368 図　SK209 出土遺物実測図…… 326
第 369 図　SK218 実測図…… 327
第 370 図　SK218 出土遺物実測図…… 327
第 371 図　SK219 実測図…… 328
第 372 図　SK219 出土遺物実測図…… 328
第 373 図　SK220 実測図…… 328
第 374 図　SK220 出土遺物実測図①…… 328
第 375 図　SK220 出土遺物実測図②…… 329
第 376 図　SK236 実測図…… 329
第 377 図　SK236 出土遺物実測図…… 329
第 378 図　SE221 土層断面実測図…… 330
第 379 図　SE221 出土遺物実測図…… 330
第 380 図　SX153 実測図…… 331
第 381 図　SX153 出土遺物実測図①…… 332

第 382 図　SX153 出土遺物実測図②…… 333
第 383 図　SX169 実測図…… 333
第 384 図　SX169 出土遺物実測図①…… 334
第 385 図　SX169 出土遺物実測図②…… 335
第 386 図　SX189 実測図…… 336
第 387 図　SX214 実測図…… 336
第 388 図　SX214 出土遺物実測図…… 336
第 389 図　SX215 実測図…… 337
第 390 図　SX215 出土遺物実測図…… 337
第 391 図　SX216 実測図…… 338
第 392 図　SX216 出土遺物実測図…… 338
第 393 図　SX188 実測図…… 338
第 394 図　SX188 出土遺物実測図…… 338
第 395 図　SX177 出土遺物実測図…… 339
第 396 図　SX213 実測図…… 339
第 397 図　SX213 出土遺物実測図…… 339
第 398 図　SX235 実測図…… 340
第 399 図　SX235 出土遺物実測図…… 340
第 400 図　SX237 実測図…… 341
第 401 図　SX237 出土遺物実測図…… 341
第 402 図　柱穴出土遺物実測図①…… 342
第 403 図　柱穴出土遺物実測図②…… 343
第 404 図　包含層・整地層出土遺物実測図①… 344
第 405 図　包含層・整地層出土遺物実測図②… 345
第 406 図　包含層・整地層出土遺物実測図③… 346
第 407 図　包含層・整地層出土遺物実測図④… 347
第 408 図　包含層・整地層出土遺物実測図⑤… 348
第 409 図　包含層・整地層出土遺物実測図⑥… 348
第 410 図　遺構の変遷…… 350

第３章　第７節　中世大友府内町跡第 78 次調査

第 411 図　調査区位置図…… 351
第 412 図　第 78 次調査区遺構配置図 …… 352
第 413 図　調査区土層実測図…… 353
第 414 図　SD013 出土遺物実測図…… 354
第 415 図　SD013 実測図…… 354
第 416 図　SK003 実測図…… 355
第 417 図　SK003 出土遺物実測図…… 355
第 418 図　SX006・SX007 実測図 …… 357
第 419 図　SX008 実測図…… 357
第 420 図　第 78 次調査遺構変遷図 …… 359

第３章　第８節　中世大友府内町跡第 79 次調査

第 421 図　調査区位置図…… 361
第 422 図　第79次調査区遺構配置図① …… 362
第 423 図　第 79次調査区遺構配置図② …… 363
第 424 図　調査区土層実測図①…… 364
第 425 図　調査区土層実測図②…… 365
第 426 図　SD040 実測図…… 368
第 427 図　SD040 出土遺物実測図…… 368
第 428 図　柱穴出土遺物実測図…… 370
第 429 図　SF018 出土遺物実測図①…… 371
第 430 図　SF018 出土遺物実測図②…… 372
第 431 図　包含層・整地層出土遺物実測図…… 373

第４章　総括

第 432 図　豊後府内出土の彫三島茶碗…… 377

表目次

第1章
第1表　中世大友府内町跡発掘調査一覧（1）… 5
第2表　中世大友府内町跡発掘調査一覧（2）… 6

第2章

第3章　第1節　府内町跡第49次調査

第3章　第2節　府内町跡51次調査
第3表　中世大友府内町跡第51次調査主要遺構一覧表①…… 16
第4表　中世大友府内町跡第51次調査主要遺構一覧表②…… 17
第5表　中世大友府内町跡第51次調査主要遺構一覧表③…… 18
第6表　中世大友府内町跡第51次調査主要遺構一覧表④…… 19

第3章　第3節　府内町跡第52次調査
第7表　中世大友府内町跡第52次調査遺構一覧表①…… 222
第8表　中世大友府内町跡第52次調査遺構一覧表②…… 223

第3章　第4節　中世大友府内町跡第67次調査A区
第9表　中世大友府内町跡第67調査A区遺構一覧表…… 277

第3章　第5節　中世大友府内町跡第67次調査B区
第10表　中世大友府内町跡第67次B調査区遺構一覧表①…… 294
第11表　中世大友府内町跡第67次B調査区遺構一覧表②…… 295

第3章　第6節　中世大友府内町跡第67次調査C区
第12表　中世大友府内町跡第67次調査C区遺構一覧表①…… 314
第13表　中世大友府内町跡第67次調査C区遺構一覧表②…… 315

第3章　第7節　中世大友府内町跡第78次調査
第14表　中世大友府内町跡第78次調査遺構一覧表…… 352

第3章　第8節　中世大友府内町跡第79次調査
第15表　中世大友府内町跡第79次調査区遺構一覧表①…… 366
第16表　中世大友府内町跡第79次調査区遺構一覧表②…… 367

遺物観察表
第1表　府内町跡第51次調査出土陶磁器・土器観察表①…… 383
第2表　府内町跡第51次調査出土陶磁器・土器観察表②…… 384
第3表　府内町跡第51次調査出土陶磁器・土器観察表③…… 385
第4表　府内町跡第51次調査出土陶磁器・土器観察表④…… 386
第5表　府内町跡第51次調査出土陶磁器・土器観察表⑤…… 387
第6表　府内町跡第51次調査出土陶磁器・土器観察表⑥…… 388
第7表　府内町跡第51次調査出土陶磁器・土器観察表⑦…… 389
第8表　府内町跡第51次調査出土陶磁器・土器観察表⑧…… 390
第9表　府内町跡第51次調査出土陶磁器・土器観察表⑨…… 391
第10表　府内町跡第51次調査出土陶磁器・土器観察表⑩…… 392
第11表　府内町跡第51次調査出土陶磁器・土器観察表⑪…… 393
第12表　府内町跡第51次調査出土陶磁器・土器観察表⑫…… 394
第13表　府内町跡第51次調査出土陶磁器・土器観察表⑬…… 395
第14表　府内町跡第51次調査出土陶磁器・土器観察表⑭…… 396
第15表　府内町跡第51次調査出土陶磁器・土器観察表⑮…… 397
第16表　府内町跡第51次調査出土陶磁器・土器観察表⑯…… 398
第17表　府内町跡第51次調査出土陶磁器・土器観察表⑰…… 399
第18表　府内町跡第51次調査出土陶磁器・土器観察表⑱…… 400
第19表　府内町跡第51次調査出土陶磁器・土器観察表⑲…… 401
第20表　府内町跡第51次調査出土陶磁器・土器観察表⑳…… 402

第 21 表　府内町跡第 51 次調査出土陶磁器・土器観察表㉑…… 403
第 22 表　府内町跡第 51 次調査出土陶磁器・土器観察表㉒…… 404
第 23 表　府内町跡第 51 次調査出土陶磁器・土器観察表㉓…… 405
第 24 表　府内町跡第 51 次調査出土木製品観察表①…… 406
第 25 表　府内町跡第 51 次調査出土木製品観察表②…… 407
第 26 表　府内町跡第 51 次調査出土土製品観察表①…… 407
第 27 表　府内町跡第 51 次調査出土土製品観察表②…… 408
第 28 表　府内町跡第 51 次調査出土石製品観察表…… 409
第 29 表　府内町跡第 51 次調査出土ガラス製品観察表①…… 410
第 30 表　府内町跡第 51 次調査出土ガラス製品観察表②…… 411
第 31 表　府内町跡第 51 次調査出土金属製品観察表…… 411
第 32 表　府内町跡第 51 次調査出土瓦類観察表…… 411
第 33 表　府内町跡第 51 次調査出土銅銭観察表①…… 412
第 34 表　府内町跡第 51 次調査出土銅銭観察表②…… 413
第 35 表　府内町跡第 51 次調査出土銅銭観察表③…… 414
第 36 表　府内町跡第 51 次調査出土銅銭観察表④…… 415
第 37 表　府内町跡第 52 次調査出土陶磁器・土器観察表①…… 416
第 38 表　府内町跡第 52 次調査出土陶磁器・土器観察表②…… 417
第 39 表　府内町跡第 52 次調査出土陶磁器・土器観察表③…… 418
第 40 表　府内町跡第 52 次調査出土陶磁器・土器観察表④…… 419
第 41 表　府内町跡第 52 次調査出土土製品観察表…… 419
第 42 表　府内町跡第 52 次調査出土金属製品・ガラス製品観察表…… 420
第 43 表　府内町跡第 52 次調査出土石製品・木製品観察表…… 420
第 44 表　府内町跡第 52 次調査出土瓦類観察表…… 420
第 45 表　府内町跡第 52 次調査出土古銭観察表…… 420
第 46 表　府内町跡第 67 次調査 A 区出土陶磁器・土器観察表…… 421
第 47 表　府内町跡第 67 次調査 A 区出土土製品観察表…… 422
第 48 表　府内町跡第 67 次調査 A 区出土石製品観察表…… 422
第 49 表　府内町跡第 67 次調査 A 区出土金属製品観察表…… 422
第 50 表　府内町跡第 67 次調査 A 区出土瓦類観察表…… 422
第 51 表　府内町跡第 67 次調査 A 区出土古銭観察表…… 422
第 52 表　府内町跡第 67 次調査 B 区出土陶磁器・土器観察表①…… 423
第 53 表　府内町跡第 67 次調査 B 区出土陶磁器・土器観察表②…… 424
第 54 表　府内町跡第 67 次調査 B 区出土陶磁器・土器観察表③…… 425
第 55 表　府内町跡第 67 次調査 B 区出土土製品観察表…… 425
第 56 表　府内町跡第 67 次調査 B 区出土石製品観察表…… 425
第 57 表　府内町跡第 67 次調査 B 区出土金属製品・ガラス製品観察表…… 425
第 58 表　府内町跡第 67 次調査 B 区出土瓦類観察表…… 425
第 59 表　府内町跡第 67 次調査 B 区出土古銭観察表…… 425
第 60 表　府内町跡第 67 次調査 C 区出土陶磁器・土器観察表①…… 426
第 61 表　府内町跡第 67 次調査 C 区出土陶磁器・土器観察表②…… 427
第 62 表　府内町跡第 67 次調査 C 区出土陶磁器・土器観察表③…… 428
第 63 表　府内町跡第 67 次調査 C 区出土土製品観察表…… 428
第 64 表　府内町跡第 67 次調査 C 区出土石製品観察表…… 429
第 65 表　府内町跡第 67 次調査 C 区出土金属製品・ガラス製品観察表…… 429
第 66 表　府内町跡第 67 次調査 C 区出土瓦類観察表…… 429
第 67 表　府内町跡第 67 次調査 C 区出土古銭観察表…… 429
第 68 表　府内町跡第 78 次調査出土陶磁器・土器観察表…… 430
第 69 表　府内町跡第 79 次調査出土陶磁器・土器観察表…… 430
第 70 表　府内町跡第 79 次調査出土土製品観察表…… 431
第 71 表　府内町跡第 79 次調査出土石製品・ガラス製品観察表…… 431
第 72 表　府内町跡第 79 次調査出土金属製品観察表…… 431
第 73 表　府内町跡第 79 次調査出土古銭観察表…… 431

写真図版目次

巻頭カラー１
中世大友府内町跡第 51・52 次調査区全景
巻頭カラー２
中世大友府内町跡第 51 次調査区全景
巻頭カラー３
中世大友府内町跡第 52 次調査区全景
巻頭カラー４
中世大友府内町跡第 51 次調査彫三島茶碗出土状況

写真図版
写真図版１（第 51 次調査）
府内町跡 51 次調査北部地区と府内町跡 52 次調査区・大友館跡 …… 435
SK533（土壙で埋め立てられた大型土坑）…… 435

写真図版２（第 51 次調査）
南部調査区全景（南から）…… 436
南部調査区全景（北から）…… 436
SD060 全景 …… 436
SD060 近景 …… 436
SE070 …… 436
SD200（万寿寺の堀）…… 436
SD200（万寿寺の堀掘曲部）…… 436
SD200 断面 …… 436

写真図版３（第 51 次調査）
SD200 出土ガラス玉 …… 437
SD200 出土鉄鍋 …… 437
SD200 遺物出土状況 …… 437
SD200 木蓋出土状況 …… 437
SE201 …… 437
SX203 塼囲遺構 …… 437
SX204 …… 437
SK234 …… 437

写真図版４（第 51 次調査）
SK236 …… 438
SK237 …… 438
SK241 …… 438
SK245 …… 438
SK250 …… 438
SK253 …… 438
SK256 …… 438
SK258 …… 438

写真図版５（第 51 次調査）
SD304 …… 439
SE310 …… 439
SD304 …… 439
SD363 下層集石 …… 439
SK422 …… 439
SE453 …… 439
SD462 …… 439
SD462 白色系土師器出土状況 …… 439

写真図版６（第 51 次調査）
SK506 …… 440
SK507 …… 440
SK533（大型土坑遠景）…… 440
SK533 検出状況 …… 440
SK566 …… 440
SK554 …… 440
SK558 …… 440
SK576 …… 440

写真図版７（第 52 次調査）
石列 SX016 …… 441
集石遺構 SX018 …… 441
土坑 SK021 …… 441
土坑 SK025 …… 441
土坑 SK074 …… 441
土坑 SK074 出土遺物 …… 441
集石遺構 SX016 …… 441

写真図版８（第 52 次調査）
集石遺構 SX019（南から）…… 442
SX019 中に見られる礎石 …… 442
集石遺構 SX019（北東から）…… 442

写真図版９（第 52 次調査）
土坑 SK030 …… 443
土坑 SK031 …… 443
土坑 SK032 …… 443
土坑 SK026 …… 443
土坑 SK033 検出状況 …… 443
土坑 SK034 …… 443
土坑 SK033 遺物出土状況 …… 443

写真図版 10（第 52 次調査）
堀 SD060・SD070（東から）…… 444
SF012 焼土…… 444
第２南北街路 SF012 上面土製仏像出土状況 … 444
SF012 焼土近景…… 444
最下面の路面の硬化状況…… 444

写真図版 11（第 52 次調査）
大型柱穴列全景…… 445
南側大型柱穴列…… 445
北側大型柱穴列…… 445

写真図版 12（第 52 次調査）
柱穴 SP039…… 446
柱穴 SP047 土層 …… 446
柱穴 SP047 完掘（北から）…… 446
柱穴 SP050…… 446
柱穴 SP041…… 446
柱穴 SP047 掘り下げ中 …… 446
柱穴 SP048 完掘（北から）…… 446
柱穴 SP055…… 446

写真図版 13（第 52 次調査）
性格不明遺構 SX073（南西から）…… 447
性格不明遺構 SX073（北から）…… 447
溝 SD069（北から）…… 447

写真図版 14（第 67 次調査 A 区）
上層遺構群（北から）…… 448
下層遺構群（北から）…… 448
上層遺構群（南から）…… 448
下層遺構群（南から）…… 448

写真図版 15（第 67 次調査 A 区）
礎石 SX001 と焼土 …… 449
土器溜め SX003 …… 449
石列 SX034 …… 449
柱穴 SP046…… 449
礎石 SX001 …… 449
柱穴 SP030…… 449
溝 SD030 遺物出土状況 …… 449
土坑 SK051 …… 449

写真図版 16（第 67 次調査 A 区）
土坑 SK047・SK048…… 450
溝 SD202 検出状況 …… 450
溝 SD202 完掘状況 …… 450

写真図版 17（第 67 次調査 B 区）
K25・26 区焼土層…… 451
焼土層遺物出土状況近景…… 451
集石遺構 SX058 …… 451
土坑 SK073 …… 451
焼土層遺物出土状況…… 451
集石遺構 SX057 …… 451
K25 区石列…… 451
土坑 SK071 …… 451

写真図版 18（第 67 次調査 B 区）
溝 SD078 上層の炭化物を多量に含む層（6 層）の検出状況…… 452
溝 SD078 遺物出土状況（大量の京都系土師器を含む）…… 452
溝 SD078 屈曲部 …… 452

写真図版 19（第 67 次調査 C 区）
第 67 次 C 調査区（拡張前・東から）…… 453
土坑 SK152 検出状況 …… 453
大甕埋設遺構 SX153 遺物出土状況 …… 453
SK152 遺物出土状況 …… 453
SX153 完掘状況 …… 453

写真図版 20（第 67 次調査 C 区）
集石遺構 SX169 検出状況 …… 454
SX169 備前焼水屋甕出土状況 …… 454
大型廃棄土坑 SX170 遺物出土状況 …… 454
SX170 完掘状況 …… 454
SX170 瓦質土器甕出土状況 …… 454

写真図版 21（第 67 次調査 C 区）
小鍛冶の炉 SX188 検出状況 …… 455
SX188 完掘状況（北東から）…… 455
土坑 SK180 検出状況 …… 455
集石遺構 SX189 …… 455
SX188 土層観察状況 …… 455
SX188 完掘状況（北西から）…… 455
SK180 完掘状況 …… 455
柱穴 SP190…… 455

写真図版 22（第 67 次調査 C 区）
土坑 SK191 …… 456
土坑 SK183 全景（西から）…… 456
SK183 全景（北東から）…… 456
土坑 SK208 …… 456
土坑 SK209 …… 456
SK183 遺物出土状況近景（東から）…… 456

写真図版 23（第 67 次調査 C 区）
集石遺構 SX214 …… 457
土坑 SK217・SK218 …… 457
石列 SX216 …… 457
土器集中部 SX214 …… 457
集石遺構 SX215 …… 457
土坑 SX219 …… 457
金属製品出土状況 …… 457
土器集中部 SX237 …… 457

写真図版 24（第 78 次調査）
第 78 次調査区全景（北から）…… 458
第 78 次調査区（上空から、上が南）…… 458

写真図版 25（第 78 次調査）
土坑 SK003 遺物出土状況（北から）…… 459
土坑 SK004 …… 459
炉関連遺構 SX008 …… 459
SD013 全景（南から）…… 459
土坑 SK003 遺物出土状況（西から）…… 459
炉関連遺構 SX006 …… 459
炉関連遺構 SX008 …… 459
SD013 遺物出土状況 …… 459

写真図版 26（第 79 次調査）
第 79 次調査区上層遺構群全景（上空から、上が北）…… 460
第 79 次調査区全景（上空から、上が南）…… 460

写真図版 27（第 79 次調査）
上層遺構群溝・柱穴列全景（西から）…… 461
上層遺構群溝・柱穴列全景（南から）…… 461

写真図版 28（第 79 次調査）
溝 SD001（西から）…… 462
溝 SD040 完掘（南から）…… 462
SD040 遺物出土状況（西から）…… 462
SD040 遺物出土状況近景（東から）…… 462
溝 SD038（西から）…… 462
SD040 完掘（北から）…… 462
SD040 遺物出土状況（南から）…… 462
SD040 断面 …… 462

写真図版 29（第 79 次調査）
土坑 SK016 …… 463
柱穴 SP025・SP026 …… 463
柱穴 SP046 …… 463
J24 区集石（東から）…… 463
柱穴 SP005（底面に砂利を敷く）…… 463
柱穴 SP031 …… 463
柱穴 SP047 …… 463
J24 区集石（西から）…… 463

写真図版 30（遺物写真）
瓦質土器大甕（67次C区SK170　第358図14）…… 464
備前焼大甕（67 次 C 区 SX153　第 381 図）…… 464
青花合子（67 次 C 区 SX153 第 382 図 1）…… 464
赤間硯（67 次 C 区 SX153 第 382 図 6）…… 464
金属製品（第 67 次 C 区　第 407 図 48 ～ 51）… 464
懸仏水瓶（67 次 A 区　第 325 図 9）…… 464
太鼓形分銅（79 次・67 次 A 区）
（第 429 図 21・第 325 図 10）…… 464
慶長通宝（79 次第 430 図 26）…… 464

第1章　はじめに

第１節　調査に至る経過

別府湾沿岸は、瀬戸内海を通じて古代から、九州の玄関口としての役割を果たしてきた。中でも大分川左岸地域は、中世・近世・近代を通じ、豊後国・大分県の行政・経済の中心地として発展してきた。特に明治以降、瀬戸内海路に加え、鉄道の敷設や道路網の整備など、陸上交通の発達が顕著になると、県庁所在地である大分市は、東九州の交通の要衝となった。そうした中、明治44年に大分駅が近世城下町の外堀の南に建設されると、周辺は大分県の物流の中心地となり、以後太平洋戦争による空襲の打撃を受けながらも、今日まで発展を遂げた。

ところが、昭和40年代以降の自動車交通量の増加は、大分駅周辺の交通状況に変化を起こし、鉄道と道路の平面交差部分では交通障害を引き起こす結果となった。そこで、これらを解消するため昭和45年、「大分市国鉄路線高架化促進期成同盟会」が設立され、25年後の平成7年に大分駅周辺総合整備事業の「大分駅付近連続立体交差事業」として採択された。このため、国道10号線も鉄道の跨線橋である万寿橋を解消する必要が生じた。国土交通省はこれに併せ、道路を拡幅し、顕徳町交差点付近の交通混雑の緩和、沿道環境の改良、交通事故の防止など、道路交通の安全と円滑化を計るため、「国道10号古国府拡幅事業」を計画した。

高架化事業

国道拡幅

一方、大分川左岸沿いには、自らキリスト教に改宗し、南蛮貿易を行った戦国大名である大友宗麟の城下町「府内」があることが、古絵図から知られていた。この古絵図には、大友館・万寿寺など当時の主要な建物の位置や、街路･町屋の配置などが明瞭に描かれ、都市の構造を伝えるものであった。その位置は昭和31年に刊行された大分市史の段階で、大友館や万寿寺をほぼ特定できたが、使用できる地形図の問題もあり、精度に欠けていた。その後、昭和63年に刊行された大分市史・中巻では新たに府内古図が確認されたこともあり、明治時代の地籍図と照合し、さらに現在の地図に置き換えた。その結果､現在の地図上に高い精度で､戦国時代の「府内」を再現することができた。その規模は、大分川沿いの東西約0.7km、南北2.2kmで、現在「中世大友府内町跡」として周知遺跡となっている。

府内古図

中世大友府内町跡

「一般国道10号古国府拡幅事業」は、この戦国時代の「府内」を南北に貫く土木工事となり、しかもこの町の中枢部である大友館の東側を通過するものであった。そこで、大分県教育委員会は、事業主体者である国土交通省と協議を行い、工事に先立ち発掘調査を実施することとなった。

第２節　調査の経過

大分県教育委員会は「一般国道10号古国府拡幅事業」に伴い中世大友府内町跡の発掘調査を、平成12年6月から開始した。この遺跡に対する発掘調査は、すでに平成8年から大分市教育委員会が大分駅南地区の区画整理事業や民間開発などに対応し実施しており、同じ遺跡を２つの組織が発掘調査する状況であった。そこで大分市教育委員会と協議を行い、遺跡全体を「中世大友府内町跡」とするが、大友館部分は「大友氏館跡」、町屋跡部分は「府内町跡」として県教育委員会と市教育委員会が重複することなく発掘調査着手順に調査次数を重ねることとした。

大友氏館
府内町跡

こうして､「一般国道10号古国府拡幅事業」の最初の調査として「府内町跡９次調査」が､開始された。その後、国土交通省と協議を重ねながら、用地が収用された順に発掘調査を行い、平成21年度末の現時点では、調査は約90％を完了している。この間、平成16年度からは文化課から独立した調査組織となった大分県教育庁埋蔵文化財センターが発掘調査を担当し、平成20・21年度は土地収用関係で現地発掘調査はなかったものの、本書のように調査報告書を継続して刊行している。また、中断していた発掘調査も未調査部分も残されており、今後継続して実施する予定である。

第３節　調査組織の構成

国指定史跡

「一般国道10号古国府拡幅事業」の発掘調査は平成12年6月から開始されたが、この事業区域の西側に隣接して「大友館跡」が想定されており、この遺跡に対して平成11年度から国指定史跡にするための確認調査を大分市教育委員会が実施することになった。このように、大規模な土木事業が重要遺跡に近接して実施されることとなり、土木事業と遺跡保存の調整が行われる場面も想定できることから文化庁と協議を行い、調査指導者会を平成12年度から大分県教育委員会と大分市教育委員会が各1回、年2回開催し、その指導を受けながら調査を実施することとなった。

本書に報告する府内町跡49・51・52・67・78・79次調査は平成16・17・18・19年度に発掘調査したもので、大友館の東側、万寿寺の西北隅から西側にあたる。以下はその調査時の体制である。

調査指導者　河原純之（千葉大学文学部教授・川村学園女子大学教授）
後藤宗俊（別府大学文学部教授）
小野正敏（国立歴史民俗博物館教授）
坂井秀弥（文化庁記念物課埋蔵文化財担当主任調査官）

平成16年度

埋蔵文化財センター所長	伊藤正行
調査第二課長	**坂本嘉弘（府内町跡43・49次調査）**
主　　査	後藤晃一（府内町跡42・48次調査）
文化財発掘調査員	加藤美成子
文化財発掘調査員	羽田野富弘
文化財発掘調査員	畔津宏幸

平成17年度

埋蔵文化財センター所長	渋谷忠章
調査第二課長	**坂本嘉弘（府内町跡51次調査）**
主　　査	**吉田　寛（府内町跡52次調査）**
主　　査	**後藤晃一（府内町跡51次調査）**
文化財発掘調査員	加藤美成子
文化財発掘調査員	羽田野富弘
文化財発掘調査員	畔津宏幸

平成18年度

埋蔵文化財センター所長	小玉学司
調査第二課長	坂本嘉弘
主　　査	**吉田　寛（府内町跡67・72次調査）**
主　　査	後藤晃一（府内町跡68・69・73次調査）
文化財発掘調査員	河原英明
文化財発掘調査員	壱岐尾可奈子

平成19年度

埋蔵文化財センター所長	福田快次
調査第二課長	栗田勝弘
主　　査	吉田　寛（府内町跡80次調査）
主　　査	**後藤晃一（府内町跡78・79次調査）**
文化財発掘調査員	河原英明
文化財発掘調査員	壱岐尾可奈子

2008年12月現在

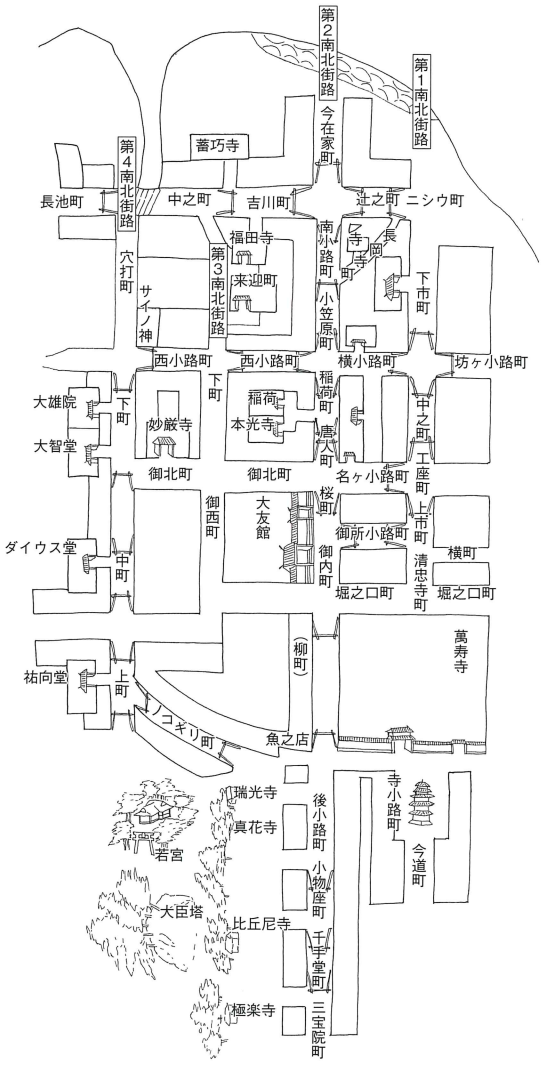
第１図　中世大友府内町跡発掘調査状況（番号は調査次数　70・74・81 次は地図範囲外）

第４節　報告書作成にあたって

１　府内古図と街路の名称

戦国時代に豊後国の中心であった府内を描いた「府内古図」は、現在３種類12枚が確認されている「府内古図」は、その研究[注1]によるとＡ類・Ｂ類・Ｃ類に分類され、成立年代は寛永13年（1634）を遡らず、新しくなるほど文字情報が増えることが明らかにされている。すなわち、Ａ類には見られない「御蔵場」の名称はＣ類のみに見られ、万寿寺西側の「柳町」の名称もＢ・Ｃ類、大友館の東北部の「称名寺」の名称は、Ｂ類にのみ書き込まれている。しかし、「府内古図」に描かれている、４本の南北の街路と５本の東西の街路名についてはいずれの「府内古図」にも記載されていない。このため、近年の研究では様々な仮称が冠されてきた。

そこで、報告書作成にあたり、こうした「府内古図」間の不整合と名称の無い街路の呼び方を統一・解消する必要が生じ、大分川側から「第１南北街路」・「第２南北街路」・「第３南北街路」・「第４南北街路」とした。「街路」の名称を選択したのは、ルイス・フロイスの「日本史」、及び宣教師達の書簡や年報の訳文が府内の道路を「街路」と記述されており、都市内の道路の意味でこの名称を使用する。また東西の道路については、御所小路町・名ヶ小路町等の道路名を含む町名があるため、それらについては「御所小路」・「名ヶ小路」とした。



第２図　「府内古図」トレース図（府内古図Ａ類をトレースし加筆）

注1　木村幾多郎「府内古図の成立」『大分市歴史資料館年報1992年度』　大分市歴史資料館　1993年

第１表　中世大友府内町跡発掘調査一覧（1）

平成21年12月現在

調査次数	調査機関	調査年度	事業名	調査場所	報告書刊行	調　査　内　容
府内町跡１次	大分市教委	平成８・９年度	区画整理移転事業	横小路町	平成16年3月	幅約10mの道路
府内町跡２次	大分市教委	平成８・９年度	区画整理移転事業	横小路町	平成16年3月	
府内町跡３次	大分市教委	平成９年度	区画整理移転事業	横小路町	平成15年3月	10基の備前焼の甕蔵
府内町跡４次	大分市教委	平成10年度	マンション建設	上市町	平成14年3月	名ヶ小路の街路の一部
府内町跡５次	大分県育委	平成11～13年度	JR日豊・豊肥線高架	御蔵場	平成17年3月	御蔵場の土塁
府内町跡６次	大分市教委	平成11年度	JA葬祭場	寺小路町・万寿寺		万寿寺の南限の堀？
府内町跡７次	大分県教委	平成12・13年度	JR日豊・豊肥線高架	清忠寺町	平成18年3月	第１南北街路・屋敷墓
府内町跡８次	大分県教委	平成12年度	JR日豊・豊肥線高架	柳町・館の南側	平成17年3月	15世紀の溝・土塁
府内町跡９次	大分県教委	平成12・13年度	国道10号拡幅	御所小路町	平成17年3月	御所小路の街路
府内町跡10次	大分県教委	平成13・14年度	JR日豊・豊肥線高架	上町・祐向寺	平成19年3月	キリシタン墓
府内町跡11次	大分県教委	平成13年度	国道10号拡幅	称名寺		称名寺の西側の堀
府内町跡12次	大分県教委	平成13年度	国道10号拡幅	大友館・桜町・名ヶ小路町	平成18年3月	大友館の東北隅・礎石建物
府内町跡13次	大分県教委	平成13年度	国道10号拡幅	御内町	平成17年3月	ヴェロニカメダイ出土
府内町跡14次	大分市教委	平成13年度	マンション建設	唐人町	平成15年3月	井戸
府内町跡15次	大分市教委	平成13年度	スーパー建設	御北町	平成21年3月	
府内町跡16次	大分県教委	平成13年度	JR日豊・豊肥線高架	上市町	平成18年3月	短冊形地割の町屋
府内町跡17次	大分市教委	平成14年度	ポンプ場建設	横町・清忠寺	平成19年3月	横町の街路・鍛冶屋跡
府内町跡18次西	大分県教委	平成13年度	国道10号拡幅	大友館・街路	平成18年3月	大友館と第２南北街路
府内町跡18次東	大分県教委	平成14年度	国道10号拡幅	桜町	平成18年3月	大友館の東側の町屋
府内町跡19次	大分市教委	平成13年度	国庫補助　範囲確認	柳町？		陶製井筒の井戸
府内町跡20次	大分県教委	平成14年度	国道10号拡幅	万寿寺	平成19年3月	礎盤建物・北境の堀
府内町跡21次	大分県教委	平成14年度	国道10号拡幅	堀之口町	平成17年3月	府内型メダイ出土
府内町跡22次	大分県教委	平成14年度	国道10号拡幅	桜町・御所小路町	平成18年3月	第２南北街路
府内町跡23次	大分市教委	平成14年度	国庫補助　範囲確認	万寿寺		
府内町跡24次	大分市教委	平成14年度	国庫補助　範囲確認	万寿寺・寺小路町		万寿寺の塔の確認
府内町跡25次	大分市教委	平成15年度	市道拡幅	ノコギリ町	平成19年3月	
府内町跡25次2	大分市教委	平成15年度	市道拡幅	祐向寺	平成18年3月	16世紀代の掘立柱建物群
府内町跡25次3	大分市教委	平成15年度	市道拡幅	上町	平成19年3月	
府内町跡25次4	大分市教委	平成15年度	市道拡幅	上町	平成19年3月	16世紀後半の道路状遺構
府内町跡25次5	大分市教委	平成16年度	市道拡幅	町外	平成19年3月	
府内町跡25次6	大分市教委	平成16年度	市道拡幅	上町	平成18年3月	
府内町跡25次7	大分市教委	平成16年度	市道拡幅	上町	平成19年3月	
府内町跡25次8	大分市教委	平成17年度	市道拡幅	上町	平成19年3月	
府内町跡25次9	大分市教委	平成17年度	市道拡幅	上町	平成19年3月	
府内町跡26次	大分市教委	平成15年度	市道拡幅	中町・デウス堂付近	平成18年3月	
府内町跡27次	大分市教委	平成16・17年度	市道拡幅	妙厳寺	平成19年3月	
府内町跡28次	大分県教委	平成15年度	国道10号拡幅	桜町	平成18年3月	大友館の東側の町屋
府内町跡29次	大分県教委	平成15年度	国道10号拡幅	万寿寺	平成21年3月	万寿寺内の区画溝
府内町跡30次	大分県教委	平成15年度	国道10号拡幅	後小路町	平成22年3月	14世紀代の町屋
府内町跡31次	大分県教委	平成15年度	JR久大線高架	瑞光寺	平成17年3月	蒋池跡
府内町跡32次	大分市教委	平成15年度	個人・市道拡幅	中町・デウス堂付近	平成18年3月	
府内町跡33次	大分市教委	平成15年度	国庫補助　範囲確認	府内の南限付近		15・16世紀後半の大溝
府内町跡33-2次	大分市教委	平成16年度	個人住宅	府内の南限付近		
府内町跡34次	大分県教委	平成15年度	国道10号拡幅	柳町	平成20年3月	万寿寺西側境の堀・礎石建物
府内町跡35次	大分県教委	平成15年度	国道10号拡幅	後小路町・万寿寺	平成21年3月	井戸・瓦多数
府内町跡36次	大分県教委	平成15年度	庄原佐野線	魚ノ店・ノコギリ町	平成20年3月	町屋跡・井戸
府内町跡37次	大分市教委	平成15年度	アパート建設	御蔵場		
府内町跡38次	大分市教委	平成15年度	アパート建設	御所小路町		推定御所小路跡・南北大溝
府内町跡39次	大分市教委	平成15年度	アパート建設	中町		
府内町跡40次	大分県教委	平成16年度	JR日豊・豊肥線高架	御内町	平成20年3月	溝
府内町跡41次	大分県教委	平成16年度	庄原佐野線	魚ノ店・ノコギリ町	平成22年3月	御蔵場の周辺の街路と町屋
府内町跡42次	大分県教委	平成16年度	国道10号拡幅	万寿寺	平成21年3月	万壽寺跡
府内町跡43次	大分県教委	平成16年度	国道10号拡幅	万寿寺	平成20年3月	萬寿寺西側境の堀・礎石建物
府内町跡44次	大分市教委	平成16年度	アパート建設	御西町		
府内町跡45次	大分市教委	平成16年度	アパート建設	中町・コレジオ堂付近		
府内町跡46次	大分市教委	平成16年度	駐車場建設	万寿寺		
府内町跡47次	大分市教委	平成16年度	店舗建設	称名寺		
府内町跡48次	大分県教委	平成16年度	工業用水管	妙ヶ小路	平成18年3月	名ヶ小路
府内町跡49次	大分県教委	平成16年度	工業用水管	柳町・街路	平成22年3月	
府内町跡50次	大分市教委	平成16年度	個人住宅　浄化槽	ノコギリ町・街路		御蔵場の西側の街路と側溝

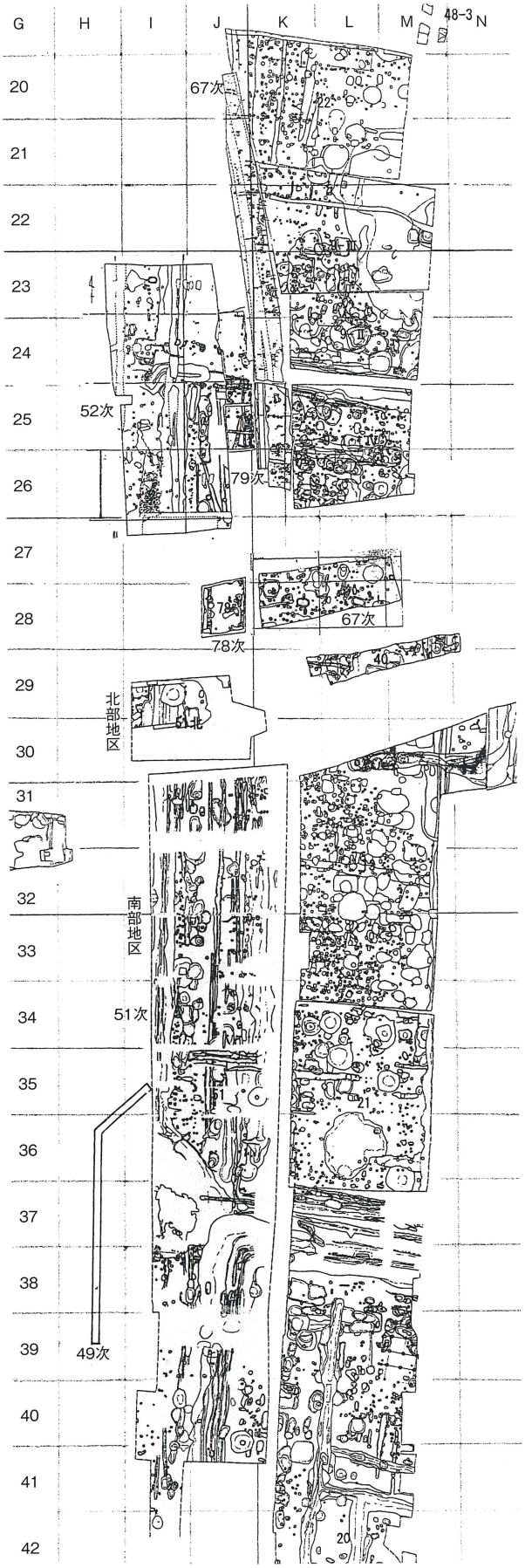
第２表　中世大友府内町跡発掘調査一覧（2）

調査次数	調査機関	調査年度	事業名	調査場所	報告書刊行	調　査　内　容
府内町跡51次	大分県教委	平成17年度	国道10号拡幅	第２南北街路・御内町	平成22年3月	万寿寺西北隅・大友館東南隅
府内町跡52次	大分県教委	平成17年度	国道10号拡幅	第２南北街路・大友氏館	平成22年3月	第２南北街路・大友館の東部
府内町跡53次	大分市教委	平成17年度	桜ヶ丘雨水幹線	万寿寺西側の堀	平成21年3月	
府内町跡54次	大分市教委	平成17年度	浄化槽	称名寺の東		
府内町跡55次	大分県教委	平成17年度	庄原佐野線	御蔵場	平成20年3月	地下蔵？
府内町跡56次	大分市教委	平成17年度	国庫補助　範囲確認	御西町		
府内町跡57次	大分市教委	平成17年度	市下水道	名ヶ小路町	平成21年3月	
府内町跡58次	大分市教委	平成17年度	アパート建設	御所小路町		
府内町跡59次	大分市教委	平成17年度	市下水道	桜町	平成21年3月	
府内町跡60次	大分市教委	平成17年度	桜ヶ丘雨水幹線	万寿寺西側の堀	平成21年3月	
府内町跡61次	大分県教委	平成17年度	JR久大線高架	瑞光寺	平成20年3月	
府内町跡62次	大分市教委	平成17年度	確認調査	第１南北街路		街路跡
府内町跡63次	大分市教委	平成18年度	確認調査	御西町		
府内町跡64次	大分市教委	平成17年度	アパート建設	御西町		
府内町跡65次	大分市教委	平成17年度	確認調査	御西町		
府内町跡66次	大分市教委	平成17・18年度	確認調査	御西町・大友館		
府内町跡67次	大分県教委	平成18年度	国道10号拡幅	桜町・御所小路町	平成22年3月	
府内町跡68次	大分県教委	平成18年度	国道10号拡幅	万寿寺	平成21年3月	
府内町跡69次	大分県教委	平成18年度	庄原佐野線	御蔵場・魚ノ店・ノコギリ町	平成22年3月	街路跡・井戸・町屋
府内町跡70次	大分市教委	平成18年度	市下水道工事	来迎寺		
府内町跡71次	大分県教委	平成18年度	JR久大線高架	瑞光寺	平成21年3月	
府内町跡72次	大分県教委	平成18年度	国道10号拡幅	称名寺		名ヶ小路・称名寺堀
府内町跡73次	大分市教委	平成18年度	桜ヶ丘雨水幹線	万寿寺西側の堀	平成21年3月	
府内町跡74次	大分市教委	平成18年度	民間共同住宅建築	大雄院の北側	平成19年3月	
府内町跡75次	大分県教委	平成18年度	庄原佐野線	御蔵場・魚ノ店	平成22年3月	第２南北街路・一括埋納
府内町跡76次	大分県教委	平成18年度	国道10号拡幅	称名寺		
府内町跡77次	大分県教委	平成19年度	庄原佐野線	御蔵場・ノコギリ町	平成22年3月	街路跡
府内町跡78次	大分県教委	平成19年度	国道10号拡幅	第２南北街路	平成22年3月	
府内町跡79次	大分県教委	平成19年度	国道10号拡幅	第２南北街路	平成22年3月	
府内町跡80次	大分県教委	平成19年度	国道10号拡幅	称名寺		第２南北街路・称名寺跡
府内町跡81次	大分市教委	平成19年度	民間共同住宅建築	中之町付近	平成21年3月	溝状遺構・井戸
府内町跡82次	大分市教委	平成20年度	個人住宅（確認）	名ヶ小路町		街路跡
府内町跡83次	大分市教委	平成20年度	民間（店舗建設）	今道町		第１南北街路跡
府内町跡84次	大分市教委	平成20年度	民間（病院関連）	中之町		
府内町跡85次	大分市教委	平成21年度	民間（店舗建設）	中町		
府内町跡86次1	大分市教委	平成21年度	国庫補助（範囲確認）	御蔵場		街路・溝
府内町跡86次2	大分市教委	平成21年度	国庫補助（範囲確認）	御蔵場		柱穴状遺構
府内町跡86次3	大分市教委	平成21年度	国庫補助（範囲確認）	ノコギリ町		井戸・廃棄土坑
府内町跡86次4	大分市教委	平成21年度	国庫補助（範囲確認）	ノコギリ町		井戸・掘立柱建物
府内町跡86次5	大分市教委	平成21年度	国庫補助（範囲確認）	ノコギリ町		井戸
府内町跡86次6	大分市教委	平成21年度	国庫補助（範囲確認）	御蔵場		溝・柱穴内礎石建物
府内町跡86次7	大分市教委	平成21年度	国庫補助（範囲確認）	御蔵場		柱穴状遺構
府内町跡86次8	大分市教委	平成21年度	国庫補助（範囲確認）	ノコギリ町		

２　本書の調査区の位置

「府内古図」は昭和63年に刊行した大分市史で、現在の地図上に復元されている。このため、戦国時代の各町や街路などが、何処にあるかはほぼ特定できる。本書に掲載している発掘調査区も調査開始時から、戦国時代の「府内」のどの位置かは想定できていた。即ち、第49次調査区は第２南北街路、第51次調査区は第２南北街路を中心に万寿寺の北西部分、第52次調査区は大友館の前面の第２南北街路と、そこから東に延びる御所小路の三叉路、第67次調査は第２南北街路とその東側の御内町、第78次調査は第２南北街路、第79次調査は御所小路を想定した調査であった。

調査の結果は、こうした遺構をほぼ正確に捉えることが出来き、「大分市史」段階の復元案の正確さを示している。調査はこの復元案の検証と修正を行うとともに、「府内古図」以前の状況を明らかにするものとなっている。



第３図　府内町跡第49･51･67･78･79次調査区位置図

第２章　遺跡の立地と環境

第１節　地理的環境

大分はその名称が示すように、平野を丘陵や河川が分断した地形をしており、各所に小規模な平野が展開する。この中で、大分川の左岸から西側にかけて広がる小地域は、中世以降今日に至るまで、豊後国・大分県の政治経済の中心地となっている。この地域は、東側を大分川が北流し、北側には別府湾が広がり、南側は高崎山系から東に延びる標高約40～30ｍの上野丘陵が横たわり、西側は高崎山（628ｍ）へと続く標高80ｍから100ｍの起伏の激しい丘陵に囲まれている。

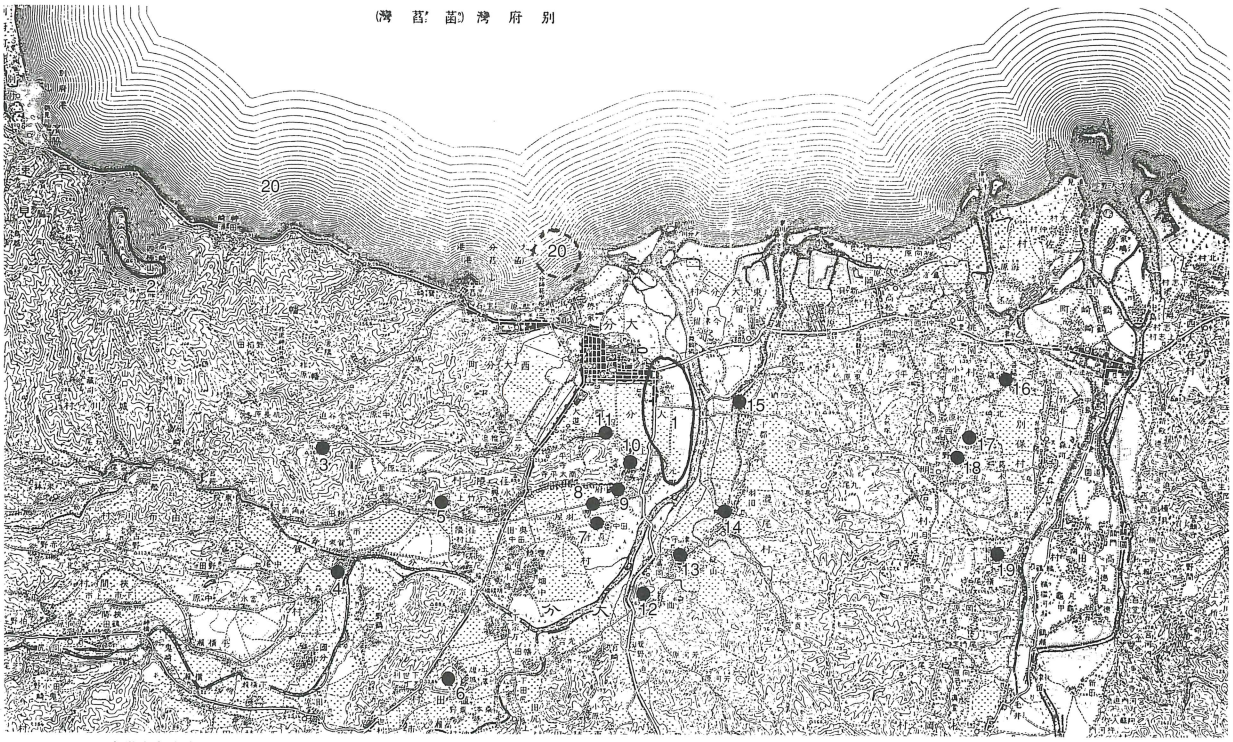
上野丘陵

こうした地域の中で、中世大友府内町跡は東部の大分川沿いに形成された都市遺跡である。府内古図に描かれている範囲は、北は現在に比べ西側に大きく曲がっている河口部から、南は上野丘陵の先端部と大分川が接する部分にあたる。現在の標高は河口に近い北部で約４ｍ、上流の南部地域で約６ｍの自然堤防上に立地する。

北と東側は別府湾と大分川に限られるが、遺跡の南西部から西側の限りは、試掘調査の結果や、元地形が残されている部分の観察から、低湿地の広がりが確認された。この部分は1950年代までレンコンを栽培していたと伝えられている。この低湿地は上野丘陵の裾を巡り、北の別府湾方向に伸び、府内古図に描かれる舟入に続いている。

舟入

中世大友府内町跡が立地する自然堤防は、発掘調査の結果、検出面は粘質土層であるが下部には砂層が厚く堆積している。下部の砂層から縄文時代晩期から古墳時代前期の土器が出土しており、上部からは８世紀頃の遺物が出土している。おそらくこの間に２～３ｍ堆積し形成されたものと考えられる。



第４図　中世大友府内町跡と周辺の戦国時代遺跡

第２節　歴史的環境

別府湾に近い大分川左岸地域化が、豊後のなかでも政治的に特別な地域として注目されるのは7世紀後半である。その代表的な遺跡として国指定史跡として整備されている古宮古墳である。西側の急峻な丘陵地にあるこの古墳は、壬申の乱（672年）で大海人皇子（天武天皇）側について活躍した大分君恵尺（えさか）・稚臣（わかみ）の墓と想定されている。また同時期の重要な遺跡として上野丘陵の南側平野で調査された羽屋井戸遺跡・羽屋園遺跡がある。この遺跡からは、７世紀後半～８世紀初頭の方形の掘り方をもつ大型掘立柱建物や総柱の倉庫群が確認されており、「評」段階の遺構と想定されている。

古宮古墳
壬申の乱
大分君恵尺
「評」

その後の設置された豊後国府については、羽屋井戸遺跡・羽屋園遺跡の東側に「古国府」の地名が残るものの、政庁本体が未だ不明である。しかし、上野丘陵の東端部で調査された龍王畑遺跡では９世紀から10世紀前半にかけての庇をもつ掘立柱建物や築地塀跡、道路状遺構が検出され、その配置から、国司館跡の可能性が指摘されている。この遺跡の東北部には８世紀～９世紀にかけての版築基壇に瓦葺の礎石建物が建てられている。さらに、この丘陵の東端部の南側崖面に岩屋寺石仏、東側崖面に元町石仏が刻まれており、平安時代後期の藤原様式の作風と言われている。このように上野丘陵の南側の羽屋地区から古国府地区、そして上野丘陵東部は7世紀後半から10世紀頃にかけて、豊後国の政治の中心地であったと考えられている。

豊後国府
龍王畑遺跡
国司館跡
岩屋寺石仏
元町石仏

11世紀から13世紀代になると、注目される文書が残されている。まず「宇佐神領大鏡」の天喜元年（1053）、康平２年（1059）、承保４年（1077）に「勝津留畠四至」として登場する。その示す範囲は、上野丘陵東部から北に広がる沖積地にあたり、16世紀に大友館が置かれる場所が含まれている。その中で天喜元年の申文に西の限りとして「高国府」の地名が見られ、上野丘陵東端部が想定されている。13世紀中頃、大友氏３代目の大友頼泰が豊後国に守護職として下向した際、「高（隆）国府」の割譲を強引に求める。このため「高国府」「勝津留畠」については守護所の設置場所と関わる重要な問題となっている。さらに、この申文の中に「東限北廻り、ニ方市河」とあり、すでに大分川沿いで河原市があり、府内古図に描かれた「府内」の初元的な位置づけがなされている。こうした様子を裏付けるような豊後府中の状況を表す文書がある。それは仁治３年（1242）の「新御成敗状」で、都市の規範を示す条項が書かれている。この文献資料は、13世紀代に豊後国の中心地である府中が、都市として成立していたことを示している。

宇佐神領大鏡
勝津留畠
高国府
大友頼泰
新御成敗状

しかし、こうした状況は考古資料で証明できているわけではない。「勝津留畠」の範囲の中で新御成敗状が描く「府中」の状況は現時点で考古学的には不明である。ただ、上野丘陵の南側の平野部で調査された石明遺跡では13世紀を中心とした大規模な溝とその内側をさらに小規模な溝で区画する遺構が確認されており、「国府」に隣接した位置でもあり、初期の守護館の指摘もある。

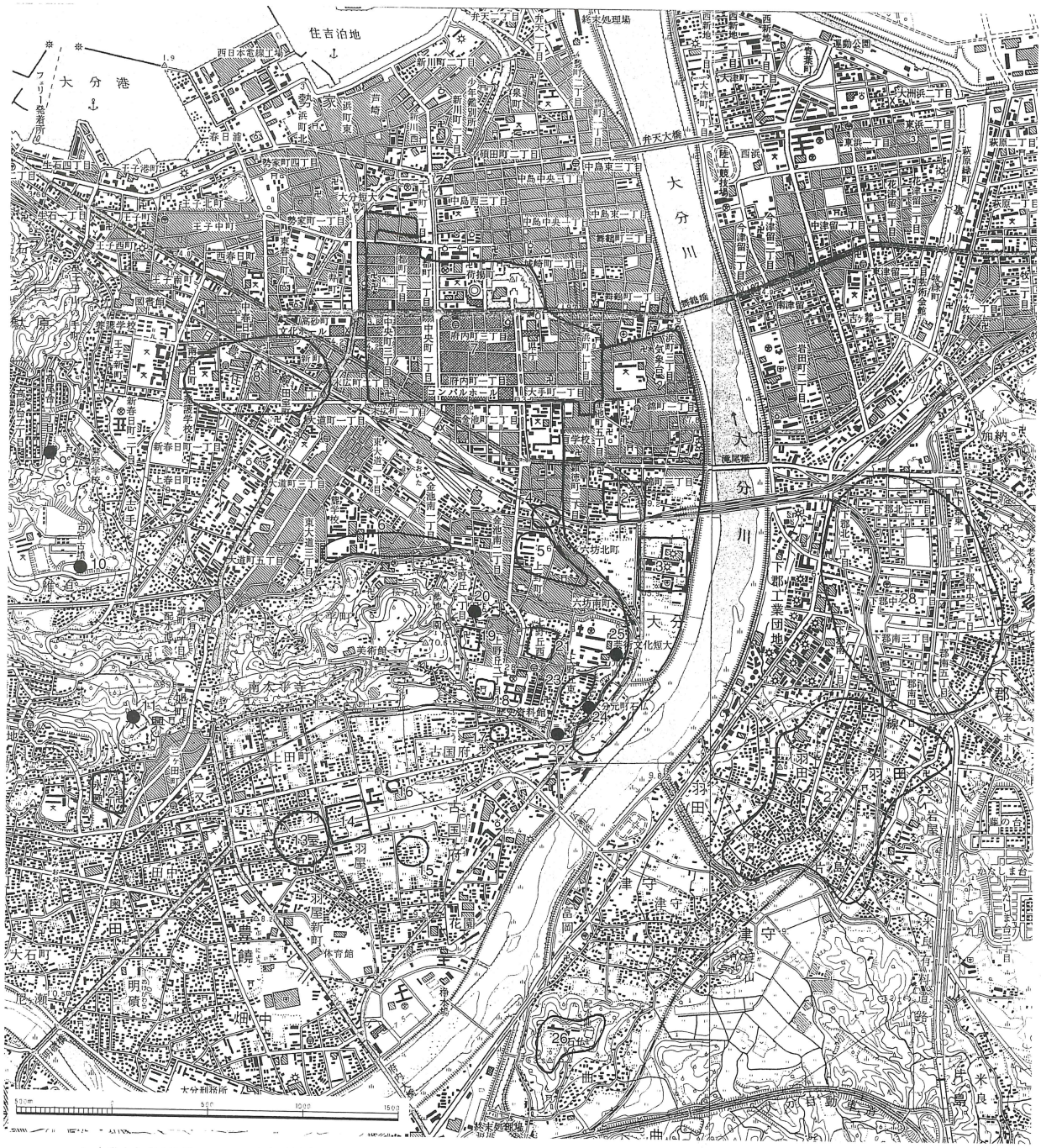
府中
石明遺跡

14世紀代になると、徳治元年（1306）に万寿寺が大分川を東に望む自然堤防上に建立されると、この地域での本格的な町づくりが開始される。これまでの中世大友府内町跡の発掘調査で確認されるのはこの時期からで、以降16世紀中頃から後半に最盛期を迎え、17世紀初頭に「府内」が近世の府内城下町建設に伴い移転するまでの遺物や遺構が継続して出土する。

万寿寺

この時期の遺跡は、府内周辺でも多く確認されている。大分川の右岸にある下郡遺跡群や津守・片島地区でも16世紀の方形館や方形区割りをもつ遺構が確認さている。独立性の強い守岡丘陵には山城的な存在である。一方上野丘陵には土塁と堀を廻らす上原館があり、その南の古国府地区には町口遺跡、北側にも16世紀の遺跡がある。さらに西方の高崎山の山頂は大友氏の詰城として知られている。このように、16世紀代の府内は、府内古図に描かれていない部分も含め、その構造が論じられている。

上原館
高崎山



第５図　中世大友府内町跡と周辺の遺跡

第３章　調査の方法と成果

第１節　中世大友府内町跡第49次調査

１．調査の概要

中世大友府内町跡第49次調査は、市道下に埋設された大分製紙工場に供給する工業用水管の付け替え工事に伴い実施したものである。依存の工業用水管は国道10号線の西側に並行する市道下から、東に屈曲し、国道下を東西に横断して東側に並行する市道下へと続いている。工事は、この工業用水管を北側に延長し、同様に東に屈曲し国道下を通すものである。このため、調査区の形状は導水管埋設工事幅となり、第５図のように、幅約２ｍ、長さ約38ｍの南北方向に細長く、北部で国道10号線下を通すため、東に屈曲している。調査は平成17年２月に行われ、２週間で終了した。

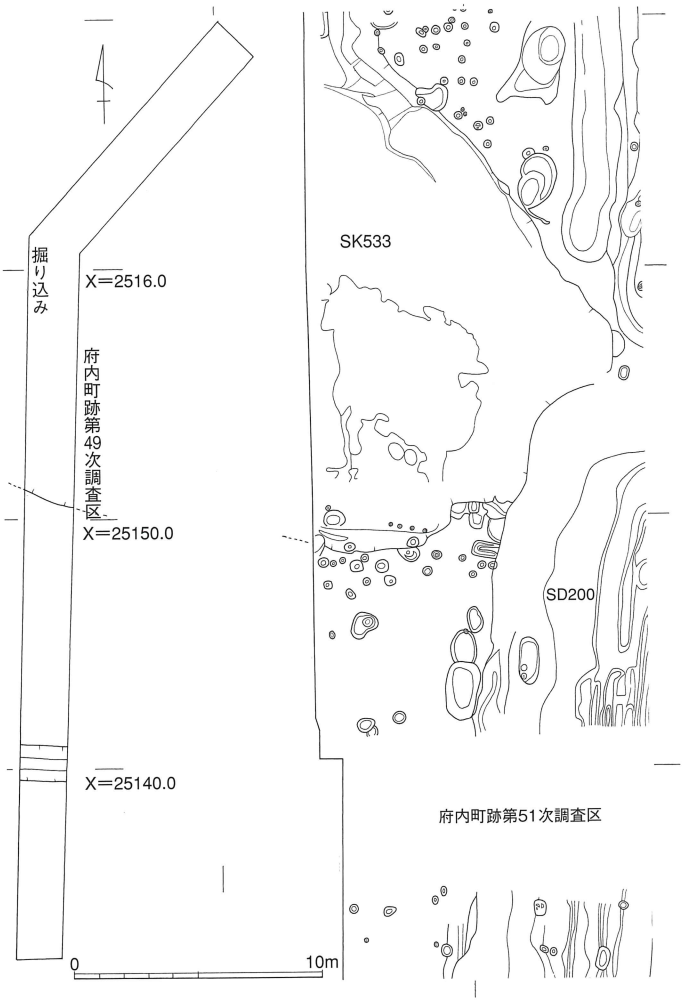
調査区は、「府内古図」から復元された戦国時代「府内」の中で、大友館の東側を通り、町を南北に貫くメインストリートである第２南北街路上にあたり、街路遺構が検出されると想定された。この街路はその後、市道に踏襲され、昭和の時代までは西側に、この地域の水田を潤す初瀬井路があった。しかし、現在の井路はコンクリート製になり、周辺の水田から約1ｍかさ上げされ、アスファルト敷きの市道下に埋設されている。

初瀬井路

調査は、既存の工業用水管の東側に屈曲する部分から北方に向けて掘削を行なった。

市道下の位置は、コンクリート製となった初瀬井路に平行するものであった。市道と初瀬井路は周辺の水田から約1ｍ高いため、街路遺構は遺存していることが想定された。しかし、調査区の西側は、初瀬井路工事のため、掘削されていた。

また、残りの部分でも、大友館跡前で検出された第２南北街路の遺構である版築状の土層は観察されなかった。また、町屋上面に広がる整地層も確認されなかた。掘削最下面となった遺構検出面で確認された遺構は、幅約２ｍの調査区内を東西に横断する溝状遺構と、北部で検出された巨大な掘り込み跡であった。しかし、後者の遺構は、調査区が狭小なため、掘り下げは危険を伴うため、面的な確認で終了した。

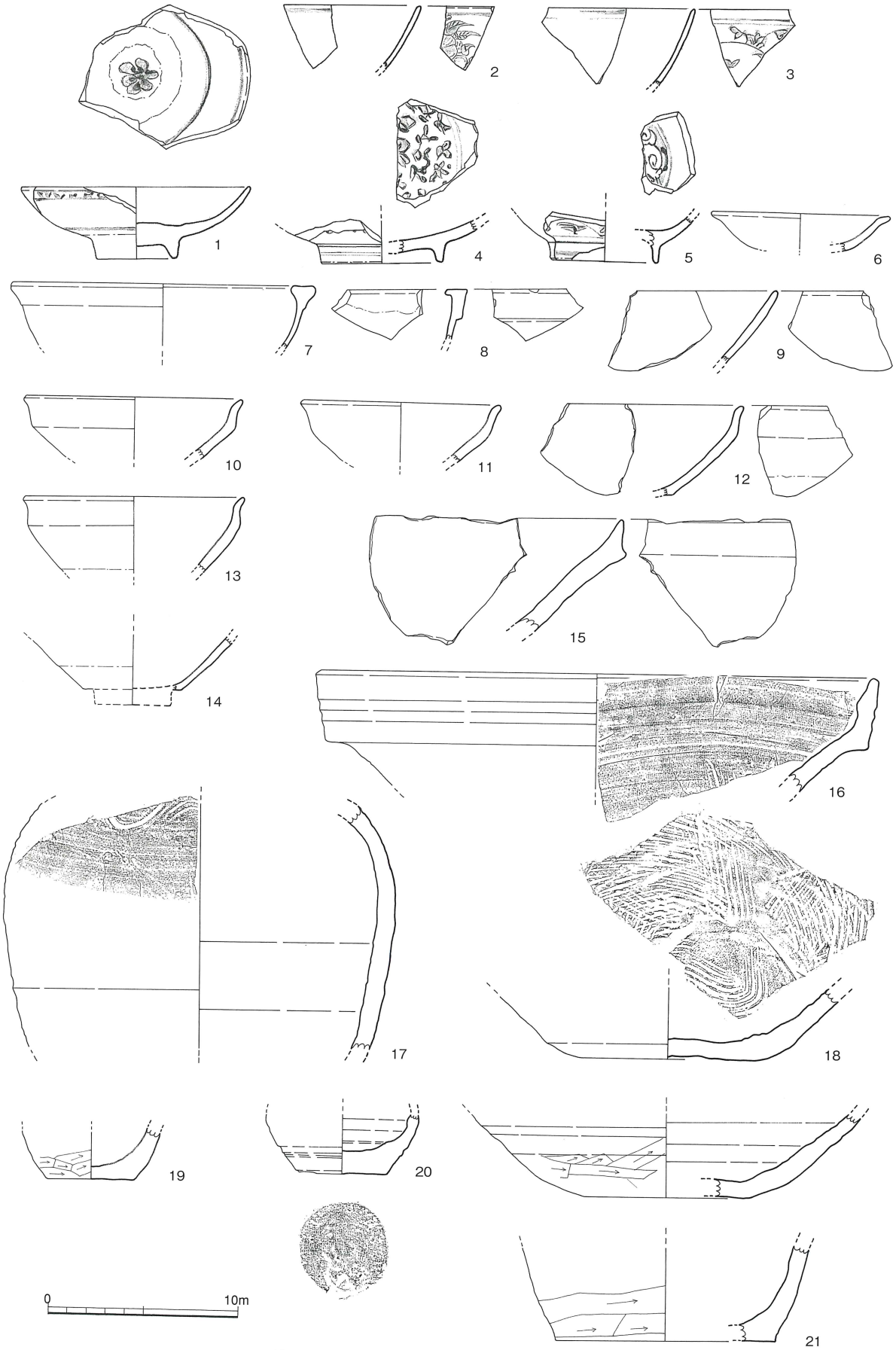


第６図　府内町跡第 49 次調査遺構配置図

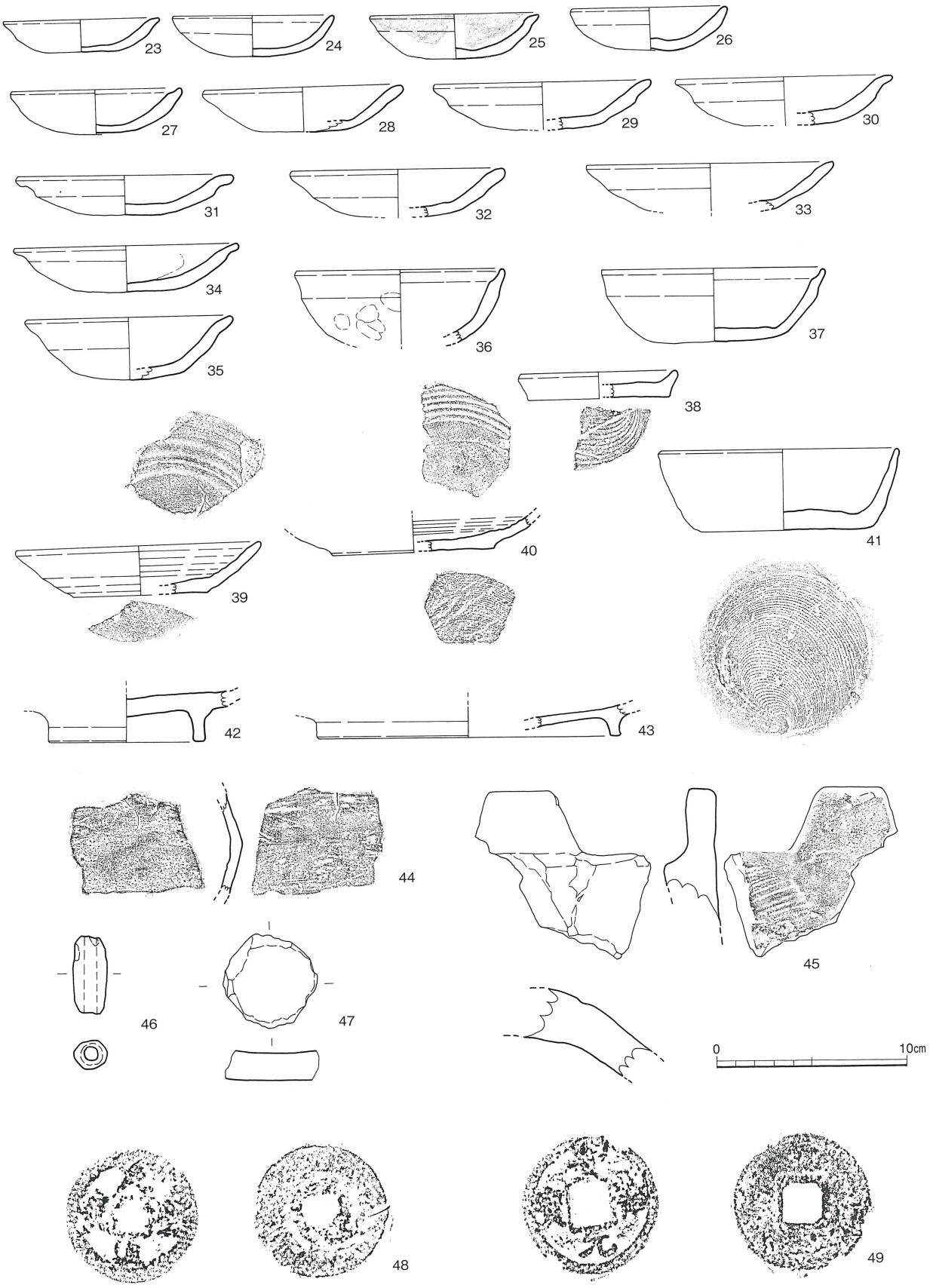
２．遺構と遺物

(1) 遺構

検出・確認された遺構は、前項でも述べたが、溝状遺構と巨大掘り込みである。溝状遺構は、幅1.5ｍ、深さ0.5ｍで、断面形態は、緩いＵ字状をしている。方向は東西に延びる。遺構内からの遺物の出土はない



第７図　府内町跡 49 次調査出土遺物①（1/3）



第８図　府内町跡 49 次調査出土遺物②（1/3）　48・49（1/1）

が、16世紀代と考える。

また調査区の北部では、全面で掘り込みが検出され、全体が遺構の上面であることが判明した。遺構の掘り下げは、周辺に余裕のある屈曲部から北側について行なったが約2.5mを掘り下げたものの、土層や出土遺物に変化はなく、崩落の危険が生じたため、底面を確認せずに終了した。

(2) 遺物

府内町跡第49次調査で検出された遺物は、第7・8図に図示した。出土した場所は、主として調査区北部の屈曲部を掘り下げた際に出土したものである。

漳州窯系
景徳鎮窯系
瀬戸美濃系
備前焼
東播系

第7図1～5は青花で、1・4は皿であるが、1は高台貼付部の器壁が厚く、文様も粗雑で、漳州窯系と考える。4は大きさから小野分類のＦ群と想定される。2・3・5は碗で2・3は景徳鎮窯系である。6は白磁の皿である。7～9は焼締陶器で、7～8の口縁部は肥厚する中国系である。9は施釉された碗の口縁部である。10～14は瀬戸美濃系の天目茶碗である。15～20・22は備前焼である。15は灰色をした擂鉢の口縁部である。17は肩部に櫛描文が施文されている。18は斜目擂目のある擂鉢で、見込み部にも擂り目が施されている。19・20は小型の壺の底部の資料であるが、22は17程度の大きさの底部である。21は灰色をしており、内面に擂り目もなく、東播系の鉢の底部と考える。

第8図23～37は京都系土師器である。「豊後府内」での京都系土師器は概ね8cm台・10cm前後、12cm前後、口径14cm前後・16cm台の５法量に分化している。図示した資料はこのうち、小さい方の３法量で、出土量も最も多い。このうち最小の8cm台のものは灯明皿として使用されている場合が多い。また、35～37は口径に比較すると器高が高く、京都系土師器は皿形であるが、これらは在地化し坏形をしており、出土量の中で少数であるが、一定量を占める。38は皿、41は坏の在地系土師質土器で、14世紀代の資料である。39・40は内面にロクロ仕上げの際の螺旋状の段を残すロクロ目土師器の皿である。豊後府内では15世紀代から16世紀前葉まで主体を占める土師質土器である。

42・43は高台が付く瓦質土器の鉢の底部である。44は縄文土器の深鉢の胴部である。45の瓦は玉縁部分が付くが、本体部分のカーブが丸瓦ではなく、特別な部位の瓦である。46は11.5ｇの土錘である。47は瓦質土器を円形に加工した資料である。48は○○通寶、49は○○元寶としか判読できない銅銭である。

３．小結

第2南北街路

南北に細長い狭小な範囲の調査となった府内町跡49次調査は、府内古図に描かれる「豊後府内」中で大友館の東側にある正門前を通り、万寿寺の西側に沿って町を南北に貫く第２南北街路に設定された調査区である。この街路は、大友館跡前の府内跡12・18・28次では、幅約11ｍで浅く皿状に堀窪められた後、版築状に砂と土が積み重ねられて整備されていることが確認されていた。また、万寿寺跡の西側の府内町跡34・43次調査では、大友館前ほどの版築状の整備は認められなかったものの、街路痕跡を証明する硬化面や小礫敷面が観察されていた。

府内町跡49次調査の位置は、大友館前と万寿寺西側の調査区のほぼ中間地点にあたり、街路整備の状況を確認する上で、重要な意味を持つものと期待された。しかし、調査の結果は、初瀬井路の工事による掘削の影響もあり、街路を証明する版築状の積み土や硬化面、小礫敷面は確認されなかった。

理由としては、第1に調査区は第２南北街路から外れて西側に平行して設定されたことが想定できる。第２に大友館や万寿寺周辺などの主要施設周辺のみ街路整備を入念に行い、それ以外にはあまり手を加えない事などが推測できる。

次に想定外の遺構として、調査区の北側大半を占める範囲で掘り込みを確認した。調査区が狭小なため、遺構の掘り下げを完了できなかったが、範囲は20ｍ、深さは2ｍを越える大規模な遺構が想定された。時期は、第７・８図に図示した遺物が主体を占めるため、16世紀後葉を想定することができる。

この遺構は、次年度の平成17年度の府内町跡51次調査で、第２南北街路に掘り込まれた直径約30ｍ、深さ約3mの巨大な土坑であることが判明した。詳細は本書第４章第２節SK533として報告している。

第２節　中世大友府内町跡第51次調査

１　調査の概要

府内町跡第51調査は、国道10号線がJR日豊・豊肥本線と交差する部分に架かる跨線橋である万寿橋の撤去後に実施されたものである。国道10号線の事業は、跨線橋とは逆に高架化されたJR日豊・豊肥線下を通すため、交差部が最低部になるように計画されていた。そこで、道路建設により掘削される部分を中心に、その前後の影響を受ける範囲を発掘調査した。調査は中央をJR日豊・豊肥線が通るため、南側を府内町跡第51次調査区、北側を府内町跡第52次調査区として実施した。

万寿橋

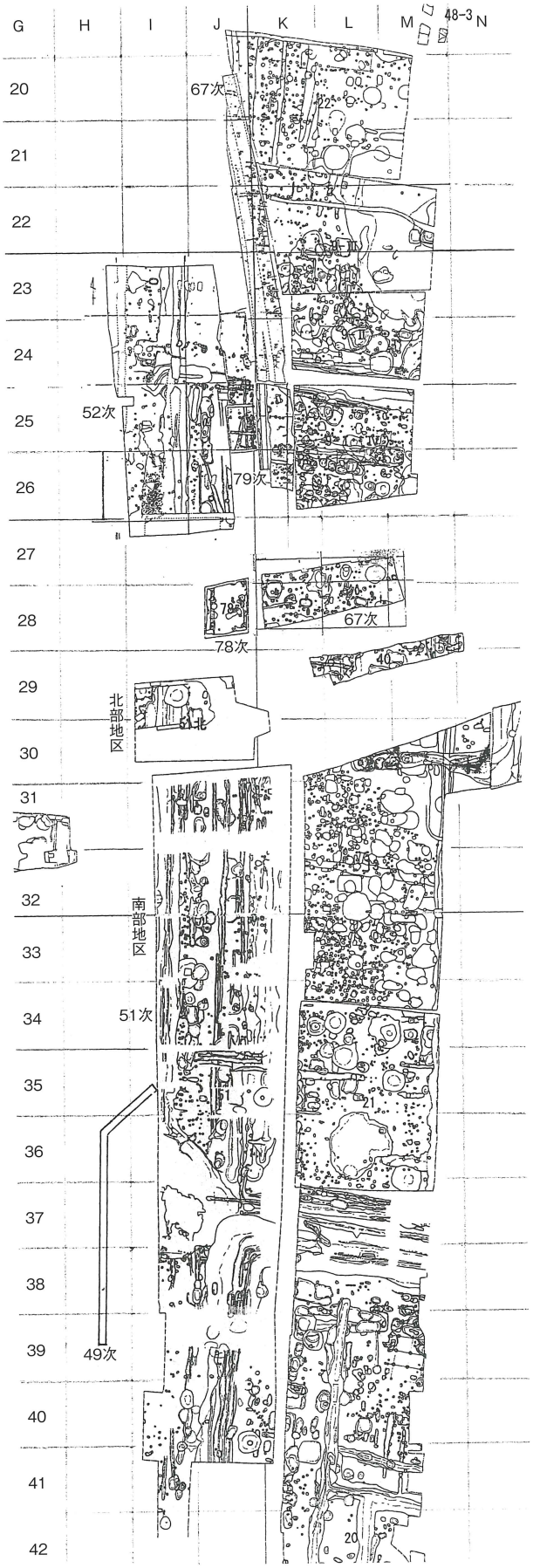
高架化

府内町跡第51次発掘調査は、平成18年2月に仮設の跨線橋と、新設のJR高架線下を通す道路の切り替えが決っていたため、周辺の付帯工事と平行して実施された。まず、平成17年4月に前年度府内町跡第49次調査として実施した工業用水管の付け替え工事と、万寿寺跡内を通る予定であった桜ヶ丘雨水幹線が、遺跡保護のため計画変更され、府内町跡第51次調査区の中央部を通るため、その部分から開始され、12月に終了した。

発掘調査区の名称は、国道10号古国府拡幅事業に伴う発掘調査であらかじめ設定した日本測地系による10mグリットでは東西方向にJ・K・L、南北方向に29～41までである。面積は東西約20m、南北約130mの細長い形状をし、約2300㎡である。

調査はJ・K・L－29とした北端部分の南側に金池下水道のボックスが埋め込まれており、遺跡は南北に分断されていた。この分断された狭い地区は北部地区とし、金池下水道の掘削による土層断面観察を参考にしながら遺構の掘削をおこなった。また、この地区の南側は南部地区として調査し、表土除去後に確認された包含層を掘り下げ、遺構を検出し、掘削を行なう方法を採用した。その結果、主要な遺構として、調査区の中央で南北に第2南北街路を検出し、その東側と西側で、区画性の強い溝が検出された。また、調査区の南側では、万寿寺を囲む堀のコーナーを確認した。さらに、街路を造成している堆積土を除去すると、廃棄土坑や大型の土坑があることが判明した。遺物はこうした遺構から、16世紀後半を中心に多量に出土した。

廃棄土坑



第９図　府内町跡第 51 次調査区位置図

第３表　中世大友府内町跡第 51 次調査主要遺構一覧表①

本書での遺構番号	調査時の遺構番号	遺構の種類	遺構の位置	遺構の時期	特記事項	掲載頁
SK001	S-001	土坑	J－35	17 世紀以降	SF012 の上面	109
SK003	S-003	土坑	J－35	17 世紀以降	SF012 の上面	109
SK005	S-005	土坑	J－35	16 世紀後葉		109
SK006	S-006	土坑	J－35	16 世紀後葉		109
SK008	S-008	土坑	J－35	16 世紀後葉	第２南北街路の東側側溝	109
SK009	S-009	土坑	J－35	16 世紀後葉		112
SK010	S-010	土坑	K-35	16 世紀後葉	S010 と同じ遺構　井戸の可能性	112
SF012	S-012	街路	I・J－29～41	16 世紀後葉～17 世紀前葉	第２南北街路	35
SD014	S-014	溝	J-31	14 世紀代	16 世紀の街路下で検出	40
SK020	S-020	土坑	K-35	16 世紀前葉	井戸の可能性	112
SK022	S-022	土坑	I－35	16 世紀後葉	第２南北街路の下部で検出	112
SD033	S-033	溝	I-29・30	16 世紀末葉	北部　第２南北街路の東側側溝　島津氏侵攻以後	20
SD034	S-034	溝	I-29・30	16 世紀末葉	北部　第２南北街路の東側側溝　島津氏侵攻以後	20
SK036	S-036	土坑	I-29・30	14 世紀代	北部	26
SD039	S-039	溝	I-29	16 世紀末葉	北部	20
SX040	S-040	整地層	I-29	16 世紀末葉	北部　大友館側の整地層	22
SX041	S-041	集石	I-29	16 世紀末葉	北部　SX040 の整地層上面集石	22
SP042	S-042	柱穴状遺構	I-29	16 世紀末葉	北部	24
SK047	S-047	土坑	I-29	14 世紀代	北部	26
SK048	S-048	土坑	J-29	14 世紀代	北部　陶磁器製人物像出土	27
SK049	S-049	土坑	I-29	14 世紀代	北部	27
SK050	S-050	土坑	I-29	14 世紀代	北部	28
SK051	S-051	土坑	I-29	14 世紀代	北部	29
SK052	S-052	土坑	I-29	14 世紀前葉	北部	29
SK053	S-053	土坑	I-29・30	14 世紀前葉	北部	29
SD057	S-057	溝	I-29・30	16 世紀後葉	北部 SD033・034 に先行する側溝	24
SD060	S-060	堀	I－29～35	16 世紀中葉～後葉	大友館東境の溝、又は南に隣接する方形館の溝南端は西に曲がり、上面は SK533 に切れる。	40
SD061	S-061	溝	I-29・30	14 世紀代	北部　V 字溝	31
SD062	S-062	溝	I-30	14 世紀代	北部　土層図で確認	32
SK063	S-063	土坑	I-30	16 世紀後葉	北部	24
SK064	S-064	土坑	I-29・30	16 世紀後葉	北部　SF012 の整備中の土坑	25
SK065	S-065	土坑	I-29	16 世紀後葉	北部	25
SE070	S-070	井戸	I-29	14 世紀代	北部　隅柱横桟型	32
SP076	S-076	柱穴状遺構	I-20	14 世紀代	北部　奈良火鉢	33
SK077	S-077	土坑	I-29	14 世紀代	北部	33
SK080	S-080	土坑	I-30	14 世紀中葉	北部	33
SD200	S-200	堀	J・K－37～41	16 世紀後葉	万寿寺西北隅と西境の堀　廃棄土坑を切り、天正 10 年には埋め立てられ屋敷地になる彫三島茶碗出土備前焼の各器種が多量に出土上面に島津氏侵攻時の火災層	48
SE201	S-201	井戸	J-40・41	16 世紀後葉	万寿寺の堀の屋敷地の裏手の井戸	164
SX202	S-202	焼土	J-40	16 世紀後葉～末葉	天正 14 年の焼土層と想定	186
SX203	S-203	塼囲	I-40	16 世紀後葉	天正 14 年島津氏侵攻直前	199
SX204	S-204	集石	J-40	16 世紀後葉	SD200 上面の集石	173
SX206	S-206	集石	J-40	16 世紀末葉	SD200 上面の集石	173
SK207	S-207	土坑	K-40	16 世紀後葉		112
SK208	S-208	土坑	K-40	16 世紀後葉		112
SP209	S-209	柱穴状遺構	K-40	16 世紀後葉		169
SX214	S-214	焼土	I・J-40・41	16 世紀後葉～末葉	天正 14 年の焼土層と想定	193
SK215	S-215	土坑	J－40	16 世紀後葉～末葉		113
SK221	S-221	土坑	J－40	14 世紀代		113
SK224	S-224	土坑	J－40	不明		115
SK225	S-225	土坑	J－40	16 世紀後葉～末葉		115
SK226	S-226	土坑	J－40	14 世紀代		115
SP226	S-226	柱穴状遺構	J－40	14 世紀代	SK226 として報告	169
SP227	S-227	柱穴状遺構	K-40	16 世紀後葉	「二石」銘	169

第４表　中世大友府内町跡第 51 次調査主要遺構一覧表②

本書での遺構番号	調査時の遺構番号	遺構の種類	遺構の位置	遺構の時期	特記事項	掲載頁
SK229	S-229	土坑	J － 39	16 世紀後葉		115
SX230	S-230	集石	J-40	16 世紀末葉	SD200 上面の集石	177
SD232	S-232	溝	J -39	16 世紀後葉	輪郭は不明確	91
SK234	S-234	土坑	I － 40	16 世紀後葉	東側を万寿寺の堀に切られる	115
SK235	S-235	土坑	I － 40	16 世紀後葉	東側を万寿寺の堀に切られる	115
SK236	S-236	土坑	I － 40	16 世紀後葉	東側を万寿寺の堀に切られる	117
SK237	S-237	土坑	I － 40	16 世紀後葉	東側を万寿寺の堀に切られる	118
SK239	S-239	土坑	I － 40・41	16 世紀後葉	東側を万寿寺の堀に切られる	118
SK240	S-240	土坑	I － 41	16 世紀後葉	東側を万寿寺の堀に切られる	120
SK241	S-241	土坑	I － 41	16 世紀後葉	東側を万寿寺の堀に切られる	120
SK245	S-245	土坑	I － 41	16 世紀後葉	東側を万寿寺の堀に切られる	120
SK246	S-246	土坑	I － 41	16 世紀後葉	東側を万寿寺の堀に切られる	120
SK247	S-247	土坑	I － 41	16 世紀後葉	東側を万寿寺の堀に切られる	121
SK249	S-249	土坑	K － 40	16 世紀後葉	東側を万寿寺の堀に切られる	121
SK250	S-250	土坑	J・K － 40・41	16 世紀後葉	東側を万寿寺の堀に切られる	121
SK253	S-253	土坑	I － 41	16 世紀後葉	東側を万寿寺の堀に切られる	122
SK256	S-256	土坑	I － 41	16 世紀後葉	東側を万寿寺の堀に切られる	122
SK257	S-257	土坑	J － 40	16 世紀末葉	SD200 の上面	122
SX258	S-258	焼土	J-40	16 世紀後葉	万寿寺堀の下層で検出	196
SP266	S-266	柱穴状遺構	I-40	14 世紀代	柱穴内礎石	169
SK270	S-270	土坑	K-38	16 世紀後葉		124
SP271	S-271	柱穴状遺構	J － 40		塼	169
SD275	S-275	溝	J -39	16 世紀後葉	J・K － 38 の溝と同じ可能性	91
SD276	S-276	溝	J -39	16 世紀後葉		91
SX277	S-277	集石	J-39	16 世紀後葉	SD200 上面の集石	178
SD304	S-304	溝	J － 31 ～ 35	16 世紀後葉～ 17 世紀前葉	第２南北街路の最終段階の側溝	91
SK307	S-307	土坑	K-31	16 世紀末葉		124
SK308	S-308	土坑	J-31	16 世紀末葉		126
SK309	S-309	土坑	J-31	16 世紀末葉		126
SE310	S-310	井戸	I・J-33	14 世紀代		166
SK311	S-311	土坑	I-31	16 世紀後葉～末葉	SD060 の上面	126
SX311	S-311	集石	I-31	16 世紀後葉	SD060 上面	178
SD314	S-314	溝	I － 31	16 世紀後葉	第２南北街路の西側側溝	93
SK319	S-319	土坑	I・J-32	16 世紀後葉	第２南北街路下	126
SX320	S-320	集石	I-32	16 世紀後葉	SD060 上面	178
SP325	S-325	柱穴状遺構	K-31	16 世紀後葉	赤間石の硯	169
SP329	S-329	柱穴状遺構	I-31	16 世紀後葉		169
SD332	S-332	溝	I － 31	16 世紀後葉		93
SX345	S-345	町屋整地層	J・K-31 ～ 37	16 世紀後葉	御内町の整地層	203
SX348	S-348	焼土	K-31	15 世紀末～ 16 世紀初頭		196
SD349	S-349	溝	I・J － 31	16 世紀後葉		
SK352	S-352	土坑	J-31	16 世紀後葉		127
SK353	S-353	土坑	J-31	16 世紀後葉		127
SD354	S-354	溝	I － 31	16 世紀後葉		93
SK355	S-355	土坑	J-31	16 世紀後葉		127
SK356	S-356	土坑	J-31	16 世紀後葉	太鼓形分銅？	127
SD357	S-357	溝	J・K-31 ～ 33	14 世紀後葉～末葉	16 世紀の街路下で検出	97
SX358	S-358	町屋整地層	J・K-31 ～ 37	16 世紀中葉	SX345 の下層	203
SK359	S-359	土坑	J-31	14 世紀代		127
SK360	S-360	土坑	J・K-31	16 世紀後葉		127
SK361	S-361	土坑	J・K-31	16 世紀後葉		129
SD363	S-363	溝	J・K-31 ～ 36	14 世紀～ 16 世紀中葉	御内町下の南北溝最下層は 14 世紀代で、上面は 16 世紀中頃まで区画性の強い溝として機能以後、埋め立てられ御内町となる。	97
SD370	S-370	溝	J-33	16 世紀後葉	第２南北街路の東側側溝の一部	105
SP375	S-375	柱穴状遺構	J-33	16 世紀後葉	第２南北街路下で検出	169
SP377	S-377	柱穴状遺構	J-32	16 世紀後葉	土錘	169
SP385	S-385	柱穴状遺構	J-33	16 世紀後葉	第２南北街路下で検出	169

第５表　中世大友府内町跡第 51 次調査主要遺構一覧表③

本書での遺構番号	調査時の遺構番号	遺構の種類	遺構の位置	遺構の時期	特記事項	掲載頁
SK388	S-388	土坑	J-32	16 世紀後葉		130
SP393	S-393	柱穴状遺構	J-34	16 世紀後葉～末葉	天正 14 年以降　焼土を含む	169
SP394	S-394	柱穴状遺構	J-34	16 世紀後葉～末葉	天正 14 年以降　焼土を含む	169
SP395	S-395	柱穴状遺構	J-35	16 世紀後葉～末葉		172
SP402	S-402	柱穴状遺構	J-33	16 世紀後葉～末葉	天正 14 年以降　焼土を含む	172
SK404	S-404	土坑	J-35	17 世紀以降		130
SX408	S-408	集石	J-33	16 世紀後葉	第２南北街路中	178
SK409	S-409	土坑	J-36	16 世紀後葉～末葉	第２南北街路上面	130
SX409	S-409	焼土	J-36	16 世紀後葉～末葉	天正 14 年の焼土層と想定	196
SK410	S-410	土坑	J-36	16 世紀後葉	緡銭状態の銅銭 60 枚埋設	130
SK411	S-411	土坑	J・K-32	16 世紀後葉		133
SK412	S-412	土坑	K-32	16 世紀後葉		133
SK415	S-415	土坑	J-36	16 世紀後葉～末葉	焼土層を含む　天正 14 年以降	134
SP416	S-416	柱穴状遺構	J-36	16 世紀後葉～末葉	天正 14 年以降　焼土を含む	172
SX420	S-420	焼土	J-33	16 世紀後葉～末葉	天正 14 年の焼土層と想定	196
SX421	S-421	集石	J-35	16 世紀後葉	SD363 上面	181
SK422	S-422	土坑	J-35	16 世紀末葉	焼土層を含む　天正 14 年以降	134
SK429	S-429	土坑	J-36	16 世紀後葉～末葉	タイの四耳壺	135
SK430	S-430	土坑	J-32	16 世紀後葉～末葉		135
SK431	S-431	土坑	J-33	16 世紀後葉	SD363 の上面の一括廃棄土坑	135
SP433	S-433	柱穴状遺構	J-33	16 世紀後葉	SD363 上面	172
SK434	S-434	土坑	J-34	16 世紀後葉～末葉		135
SP436	S-436	柱穴状遺構	K-33	16 世紀後葉		172
SK438	S-438	土坑	J-34	14 世紀代	J-35 に延長部の遺構	138
SX440	S-440	集石	J-37	16 世紀後葉	万寿寺北側の東西街路と関連	181
SX441	S-441	集石	J-37	16 世紀後葉	第２南北街路と東西街路の交差点	181
SX442	S-442	集石	J-38	16 世紀後葉	SD200 掘削中に検出	182
SD446	S-446	溝	J・K－37	16 世紀後葉～末葉	万寿寺北側の東西街路の側溝	105
SF447	S-447	街路	J・K－37	16 世紀後葉～末葉	万寿寺北側の東西街路	40
SX451	S-451	集石	K-33	14 世紀代	SD363 内の集石	172
SE453	S-453	井戸	K-35	16 世紀後葉	SD363 の上面	167
SK457	S-457	土坑	J-37	16 世紀後葉		138
SK458	S-458	土坑	J-37	16 世紀後葉	礫が充填	138
SX461	S-461	集石	J-37	16 世紀後葉	万寿寺北側の東西街路と関連	182
SD462	S-462	溝	J・K－37	15 世紀前葉	白色系土器一括廃棄を検出	105
SD463	S-463	溝	J－36	16 世紀後葉		105
SK465	S-465	土坑	J-34	16 世紀後葉		138
SK466	S-466	土坑	J-35	16 世紀後葉		139
SK469	S-469	土坑	J-34	16 世紀後葉		139
SK470	S-470	土坑	J・K-34・35	16 世紀後葉	第２南北街路下で検出	139
SK471	S-471	土坑	J-32・33	16 世紀後葉		139
SK474	S-474	土坑	J-34	16 世紀後葉	第２南北街路下で検出	139
SK475	S-475	土坑	J-38	16 世紀後葉	SD200 上面　集石 SX469 の下部	139
SK476	S-476	土坑	J-35	16 世紀後葉	第２南北街路下で検出	141
SK477	S-477	土坑	J-35	16 世紀後葉	第２南北街路下で検出	141
SK478	S-478	土坑	I・J-33	16 世紀後葉	第２南北街路下で検出	141
SK479	S-479	土坑	J-33	16 世紀後葉	第２南北街路下で検出	142
SK480	S-480	土坑	J-33	16 世紀後葉	第２南北街路下で検出	142
SK481	S-481	土坑	I・J-33	16 世紀後葉	第２南北街路下で検出	142
SK482	S-482	土坑	I-33	16 世紀後葉	第２南北街路下で検出	142
SD483	S-483	溝	I－32	16 世紀後葉	第２南北街路の西側側溝	106
SK485	S-485	土坑	J-32	16 世紀後葉	第２南北街路下で検出	144
SK486	S-486	土坑	J-32	16 世紀後葉	第２南北街路下で検出	144
SK487	S-487	土坑	I・J-32	16 世紀後葉	第２南北街路下で検出	144
SK489	S-489	土坑	I・J-32	16 世紀後葉	第２南北街路下で検出	144
SK490	S-490	土坑	J-32	16 世紀後葉	第２南北街路下で検出	145
SK491	S-491	土坑	I-33	16 世紀後葉	SD060 の上面で検出	145
SK493	S-493	土坑	J-35	16 世紀後葉	第２南北街路下で検出	145
SD495	S-495	溝	I－33・34	16 世紀後葉	第２南北街路の積土下位で検出	106

第６表　中世大友府内町跡第 51 次調査主要遺構一覧表④

本書での遺構番号	調査時の遺構番号	遺構の種類	遺構の位置	遺構の時期	特記事項	掲載頁
SK496	S-496	土坑	J-35	16 世紀後葉	第２南北街路下で検出	145
SK497	S-497	土坑	I-34	16 世紀後葉	第２南北街路下で検出	147
SK498	S-498	土坑	J-34	16 世紀後葉	第２南北街路下で検出	147
SD499	S-499	溝	J － 33 ～ 36	14 世紀代？	第２南北街路の下位で検出	106
SK500	S-500	土坑	I・J-32・33	16 世紀後葉	第２南北街路下で検出	147
SK501	S-501	土坑	J-33	16 世紀後葉	第２南北街路下で検出　井戸上面	148
SK502	S-502	土坑	J-33	16 世紀後葉	第２南北街路下で検出	148
SK505	S-505	土坑	J-34	14 世紀代		148
SK506	S-506	土坑	I・J-34	16 世紀後葉	第２南北街路下で検出	148
SK507	S-507	土坑	I-35	16 世紀後葉	第２南北街路下で検出	148
SK508	S-508	土坑	I-34	16 世紀後葉	第２南北街路下で検出	148
SK509	S-509	土坑	I・J-33	16 世紀後葉	第２南北街路下で検出	150
SK510	S-510	土坑	I-35	16 世紀後葉	第２南北街路下で検出	150
SK511	S-511	土坑	I-35	16 世紀後葉	第２南北街路下で検出	150
SK512	S-512	土坑	I-32	16 世紀後葉	第２南北街路下で検出	151
SK513	S-513	土坑	I・J-33	16 世紀後葉	第２南北街路下で検出	151
SK514	S-514	土坑	J-33	16 世紀後葉	第２南北街路下で検出	151
SK516	S-516	土坑	I-32	16 世紀後葉	第２南北街路下　SD06 上面で検出	153
SK517	S-517	土坑	J-33	16 世紀後葉	第２南北街路下で検出	153
SX518	S-518	集石	J-37	16 世紀後葉	SK533 上面検出	183
SD519	S-519	溝	I-35	16 世紀後葉		106
SK520	S-520	土坑	J-35	14 世紀代		153
SK521	S-521	土坑	J-35	16 世紀後葉	第２南北街路下で検出	153
SP528	S-528	柱穴状遺構	I-35	14 世紀代		172
SP529	S-529	柱穴状遺構	I-35		砥石	172
SP530	S-530	柱穴状遺構	J-35	14 世紀代		172
SK533	S-533	土坑	I・J-36・37	16 世紀後葉	第２南北街路下で検出　大型土坑　土嚢で埋め立てられる。	153
SX534	S-534	集石	J-38	16 世紀後葉	万寿寺堀の上面で検出	184
SK538	S-538	土坑	I・J-36	14 世紀代		155
SK544	S-544	土坑	J-36	16 世紀後葉	第２南北街路下で検出	161
SK550	S-550	土坑	I・J-38	16 世紀後葉	第２南北街路下で検出	155
SK551	S-551	土坑	I・J-38	16 世紀後葉	第２南北街路下で検出	161
SK552	S-552	土坑	I・J-38	16 世紀後葉	第２南北街路下で検出	161
SK553	S-553	土坑	I・J-38	16 世紀後葉	第２南北街路下で検出	161
SK554	S-554	土坑	J-36	16 世紀後葉	第２南北街路下で検出	161
SP556	S-556	柱穴状遺構	I-38		空風輪２点出土	172
SD557	S-557	溝	I・J － 38	14 世紀代？		108
SK558	S-558	土坑	J-36	16 世紀後葉	第２南北街路下で検出	162
SK560	S-560	土坑	I・J-34	16 世紀後葉	第２南北街路下で検出	162
SD562	S-562	溝	I － 34	16 世紀後葉	SD060 の底で検出	108
SD563	S-563	溝	I － 34	16 世紀後葉	SD060 の底で検出	108
SD566	S-566	溝	I － 38	14 世紀代？	SD557 と対か？	109
SK568	S-568	土坑	I-38	14 世紀代		162
SK570	S-570	土坑	I-38	16 世紀後葉	第２南北街路下で検出	163
SK575	S-575	土坑	J-35・36	16 世紀後葉	第２南北街路下で検出	163
SK576	S-576	土坑	I-37・38	16 世紀後葉	第２南北街路下で検出	163
SK581	S-581	土坑	J-38	16 世紀後葉	第２南北街路下で検出	163

2　北部地区の遺構と遺物

北部地区は100㎡に満たない狭い範囲であるが、調査区の南の掘削面で観察した第13図の土層からは連続して遺構が掘削されていることが理解でき、概ね5面の遺構面を確認した。

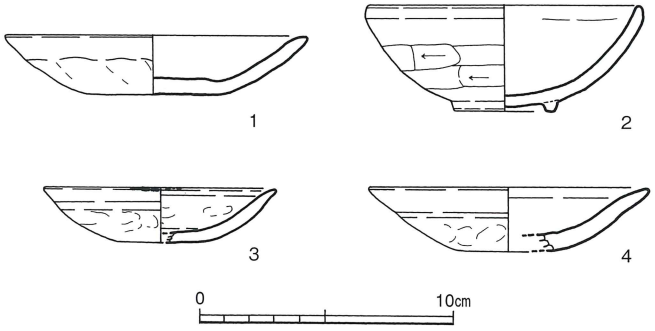
(1) 第1面

表土除去後最初に確認された遺構面である。第2南北街路面とそれに伴う遺構が主体となる。時期は16世紀末葉で、天正14年(1586)の島津氏の豊後府内侵攻以後と想定する。

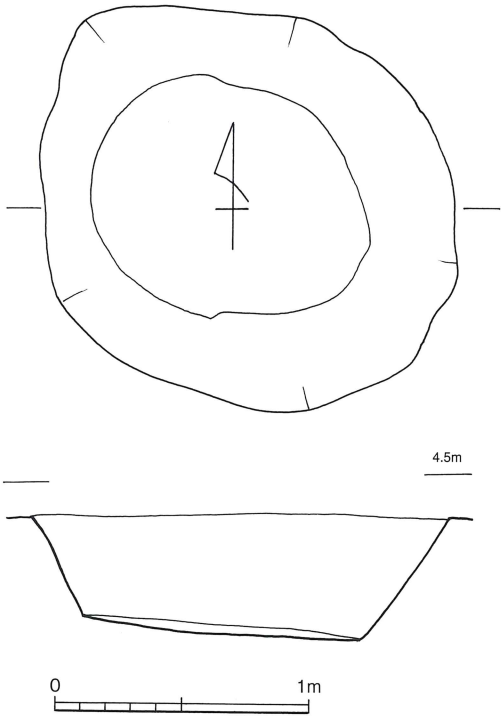
天正14年

SD033・034　SD033とSD034は、ほぼ同じ位置に掘り込まれた南北に細長い側溝状の遺構である。第13図の土層図でも示しているように、その位置は第2南北街路の西側の側溝にあたる。第10図に図示した京都系土師器と瓦質土器の碗が出土している。

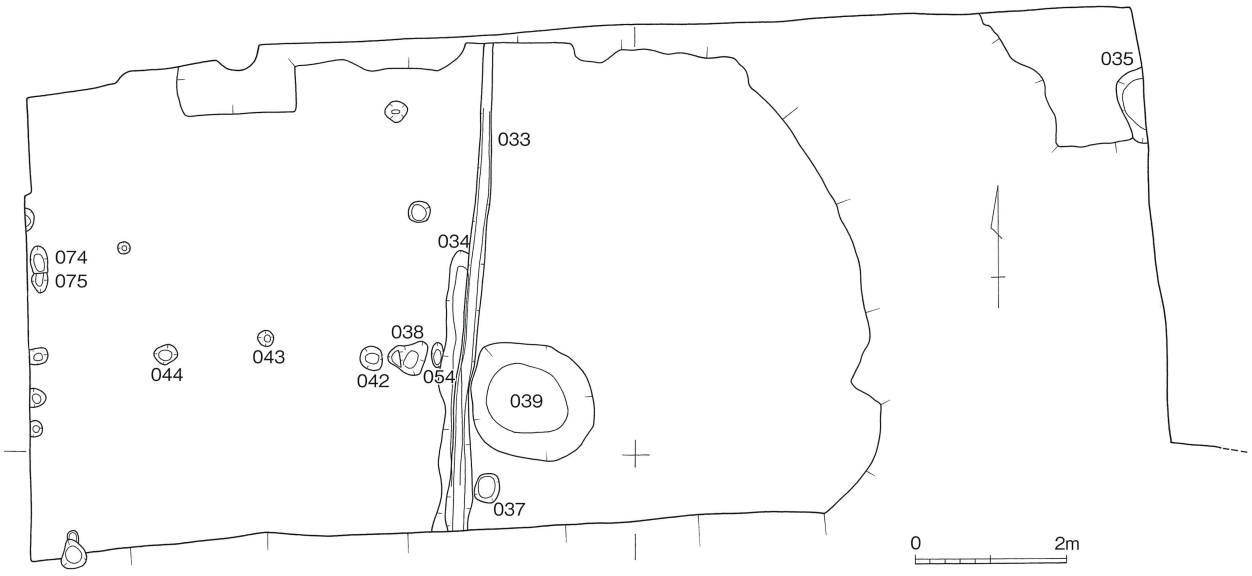
SK039　第11図に図示したSK039は街路面に掘り込まれた円形の土坑で、第30図1・2の京都系土師器が出土している。



第 10 図　SD033・034 出土遺物実測図



第 11 図　SK039 実測図（1/30）



第 12 図　府内町跡第 51 次調査北部地区第 1 面遺構配置図（1/100）

〈A〉7.5YR 4/3 褐色　館内の整地層。炭焼土がまばらに混入の弱粘性。

SK080 a、7.5YR 5/2 灰褐色　しまり悪く、石・炭・焼土等混入物が全体にみられる。弱粘性。
SD062 b、10YR 4/4 褐色　aに比べ、しまり良く、混入物も少ない。
c、10YR 4/6 褐色　地山に近いが、地山よりやや粘性強く、小粒の炭も少量混入。

SK053 ① 10YR 5/6 黄褐色　しまり良く、きめの細かい砂が全体に混入。弱粘性。
② 10YR 5/3 にぶい黄褐色　①に比べ、やや粘性強い。小粒の炭が少量混入。

〈a〉 7.5YR 5/1 褐灰色　粘性やや強・小粒の炭が混入。下部に灰白色のきめの細かい砂ブロックが見られる。

SD033 α 7.5YR 5/2 灰褐色　大量の焼土と炭・小石が混入。
SD034 β 10YR 4/2 灰黄褐色　しまり悪く、小石等の混入物は見られるが、焼土はあまり見られない。

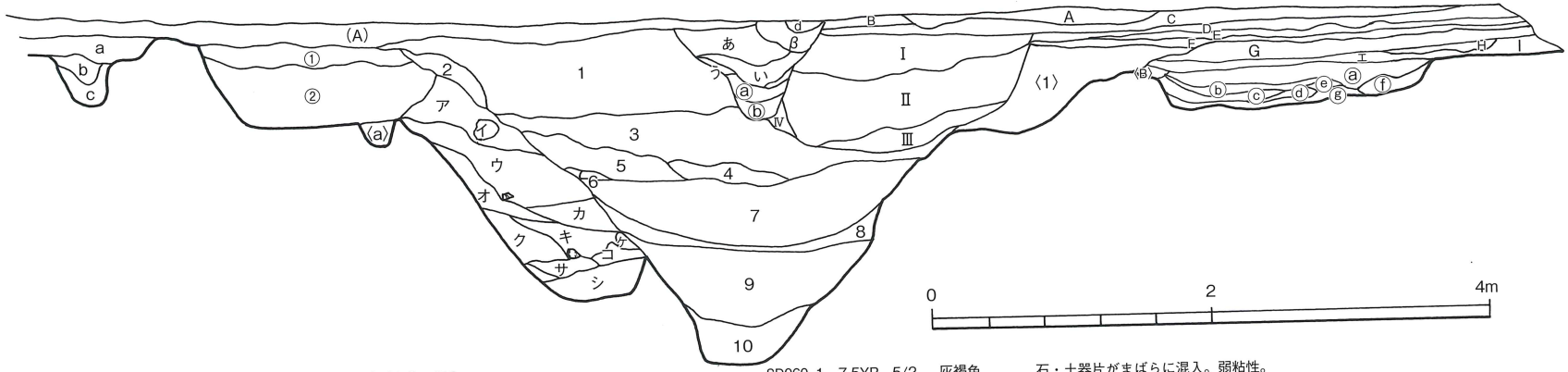
SD057 あ .10YR 5/4 にぶい黄褐色　小石・きめのあらい砂が全体にまばらに混入。弱粘性。
い .10YR 5/3 〃　きめのあらい砂のブロックが帯状に混入。
う .10YR 6/3 にぶい黄橙色　きめの細かい砂質土。
え .7.5YR 7/2 明褐灰色　きめの細かい砂質土。下部に灰褐色の粘質土が帯状に堆積。

S059 （ⅰ）10YR 6/4 にぶい黄橙色　しまり良く、粘性やや強い。
（ⅱ）7.5YR 6/2 灰褐色　きめのあらい砂、小石がまばらに混入。灰褐色の粘質土のブロックが帯状に混入。

SK063 Ⅰ .10YR 4/6 褐色　小石・小粒の炭が少量混入。弱粘性。
Ⅱ .10YR 4/4 褐色　小粒の炭・土器片がまばらに混入。弱粘性。
Ⅲ .10YR 5/6 黄褐色　きめの細かい砂質土の中に黄褐色・灰褐色の粘土ブロックが多く混入。
Ⅳ .7.5YR 5/2 灰褐色　色が異なる以外はⅡ層に類似。

SK064 〈1〉 7.5YR 4/2 灰褐色　弱粘性の土の中に、粘土の大ブロックが見られる。下部にいくほど、地山に類似した砂質土が多く混入。

5000m



SF012 A、10YR 6/2 灰黄褐色　粘性非常に弱くきめのあらい砂が全体に混入。
B、7.5YR 5/3 にぶい褐色　弱粘性。きめのあらい砂のブロックが見られる。
C、10YR 6/3 にぶい黄橙色　砂利が全体にまんべんなく混入。
D、10YR 5/2 灰黄褐色　しまり悪く砂利がまばらに混入。弱粘性。
E、7.5YR 5/3 灰褐色　粘性やや強い。小粒の炭・土器片が全体にまばらに混入。
F、10YR 5/4 にぶい黄褐色　しまり悪く、褐灰色の粘土が帯状に混入。
G、10YR 6/1 にぶい黄褐色　しまり悪く、混入物少ない。上部に粘土の大ブロックが見られる。弱粘性。
H、5YR 6/1 褐灰色　色の違い以外はⅠ層に類似。
I、5YR 5/1 褐灰色　粘性やや強く小粒の炭がまばらに混入。

SD061 ア、7.5YR 4/2 灰褐色　色の違い以外はウ層に類似。
イ、5YR 4/2 灰褐色　しまり悪く、炭・きめのあらい砂が混入。
ウ、7.5YR 4/3 褐色　小粒の炭・土器片・小石がまばらに混入。しまり良い。
エ、5YR 4/1 褐灰色　しまり良く、粘性やや強い。大きめの石が少量混入。
オ、10YR 5/4 にぶい黄褐色　きめの細かい砂が全体に混入。褐色の粘土の小ブロック混入。他の混入物少ない。
カ、10YR 6/2 灰黄褐色　オ層に類似。オ層よりさらに粘性弱い。
キ、10YR 7/1 灰白色　しまり良く、粘性やや強い。混入物ほとんどなし。
ク、10YR 5/2 灰黄褐色　キ層に類似。きめのややあらい砂ブロック混入。
ケ、10YR 5/3 にぶい黄褐色　粘性非常に強く、混入物ほとんどなし。
コ、10YR 6/1 褐灰色　粘性非常に強く、石・小粒の炭が少量混入。
サ、10YR 5/6 黄褐色　粘性弱く混入物ほとんどなし。
シ、10YR 6/3 にぶい黄橙色　コ層に類似。コ層より粘性強い。

SD060 1、7.5YR 5/2 灰褐色　石・土器片がまばらに混入。弱粘性。
2、10YR 5/3 にぶい黄褐色　きめの細かい砂質土。混入物はほとんどなし。
3、5YR 4/2 灰褐色　小粒の炭が目立つ。1層よりやや粘性強い。
4、5YR 4/1 褐灰色　3層より粘性強く、しまりも良い。
5、2.5YR 4/3 オリーブ褐色　色が異なる以外は3層に類似。
6、10YR 6/2 灰黄褐色　きめの細かい砂ブロックが帯状に混入。
7、10YR 3/3 暗褐色　きめのあらい砂の中に大量の砂利が混入。
8、2.5Y 5/1 黄灰色　シルト層（弱粘質土）
9、2.5Y 5/3 黄褐色　きめの細かい細砂層。水流によるものと考えられる。
10、N51 灰色　粘質土。

SK036 ⓐ 2.5GY 4/1 暗オリーブ灰色　多量の炭混入。
ⓑ N 3/1 灰色　炭層。完形の土器混入。
ⓒ 2.5Y 6/1 黄灰色　しまり悪く、弱粘性。褐色の小ブロック、小粒の炭が全体にまばらに混入。
ⓓ N 4/1 灰色　炭層。
ⓔ 2.5Y 6/2 灰黄色　きめの細かい砂層。小粒の炭・土器片が少量混入。
ⓕ 2.5Y 5/3 黄褐色　きめの細かい砂層。混入物少なく、地山に近い。
ⓖ 2.5Y 5/2 暗灰黄色　しまり良く、粘土の大ブロック混入。

〈b〉 10YR 6/2 灰黄褐色　きめのあらい砂まじり。小石が少量混入。

第13図　府内町跡51次　北部地区　土層断面図（1/50）

SX040　SK040は第13図の土層図で見るように、街路側溝SD033・034の西側、即ち大友館側を埋め立てた整地層である。出土遺物は、第15・16図に図示した。第16図のように京都系土師器を主体としながら、1・2の景徳鎮窯系の碗や皿、3の見込みに「壽」の文字のある龍泉窯系の大皿や4の高台にヘラによる割りを加えた香炉、7の四耳壷と考えるタイ産の焼締陶器など多様な遺物が出土している。

壽

龍泉窯系

タイ産四耳壷

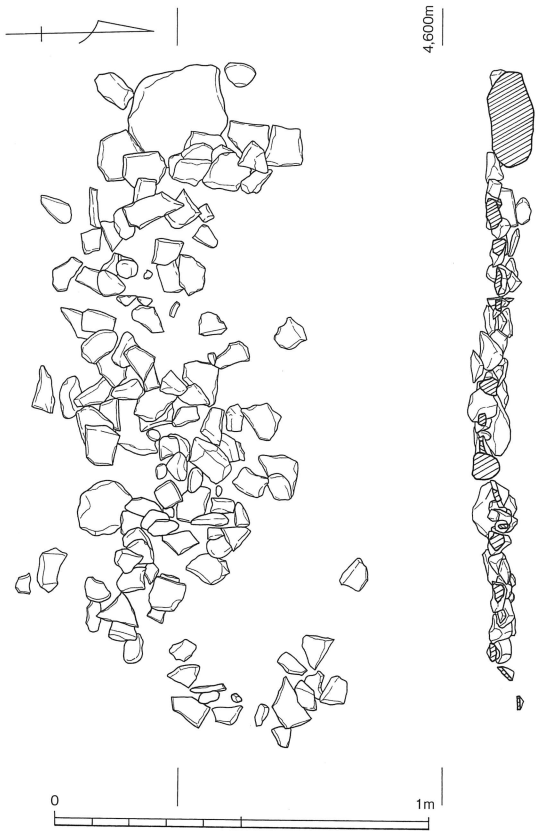
また、国内産では8・9の備前焼の碗が認められ、6は高台周辺以外に灰緑色の釉を被った肥前系陶磁器である。この他、第15図に図示した、27～30の坩堝や31～34備前焼や瓦質土器の破片を研磨し円形に仕上げた土製品や、35・36の紡錘形の土錘、37の天草石製の砥石、38の0.4gの繭形分銅、「元豊通寶」と読める銅銭が出土している。

灰緑色の釉

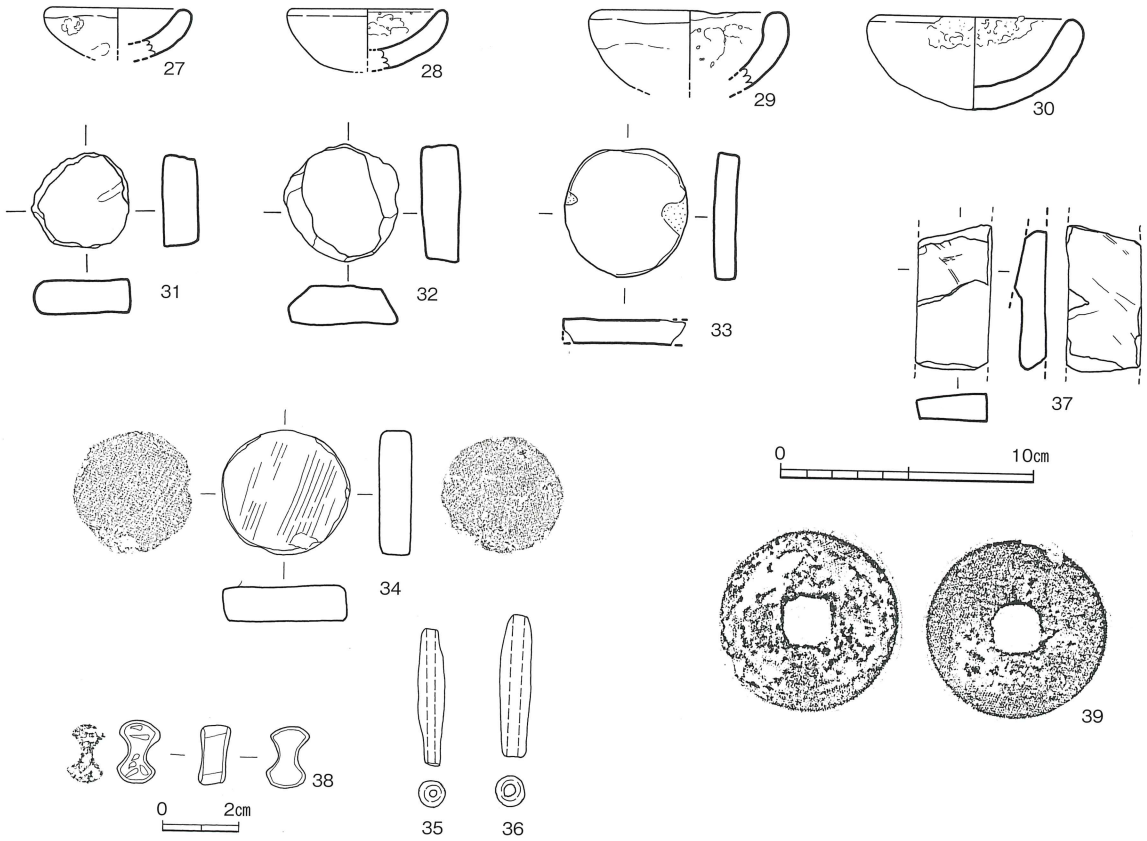
肥前系陶磁器

繭形分銅

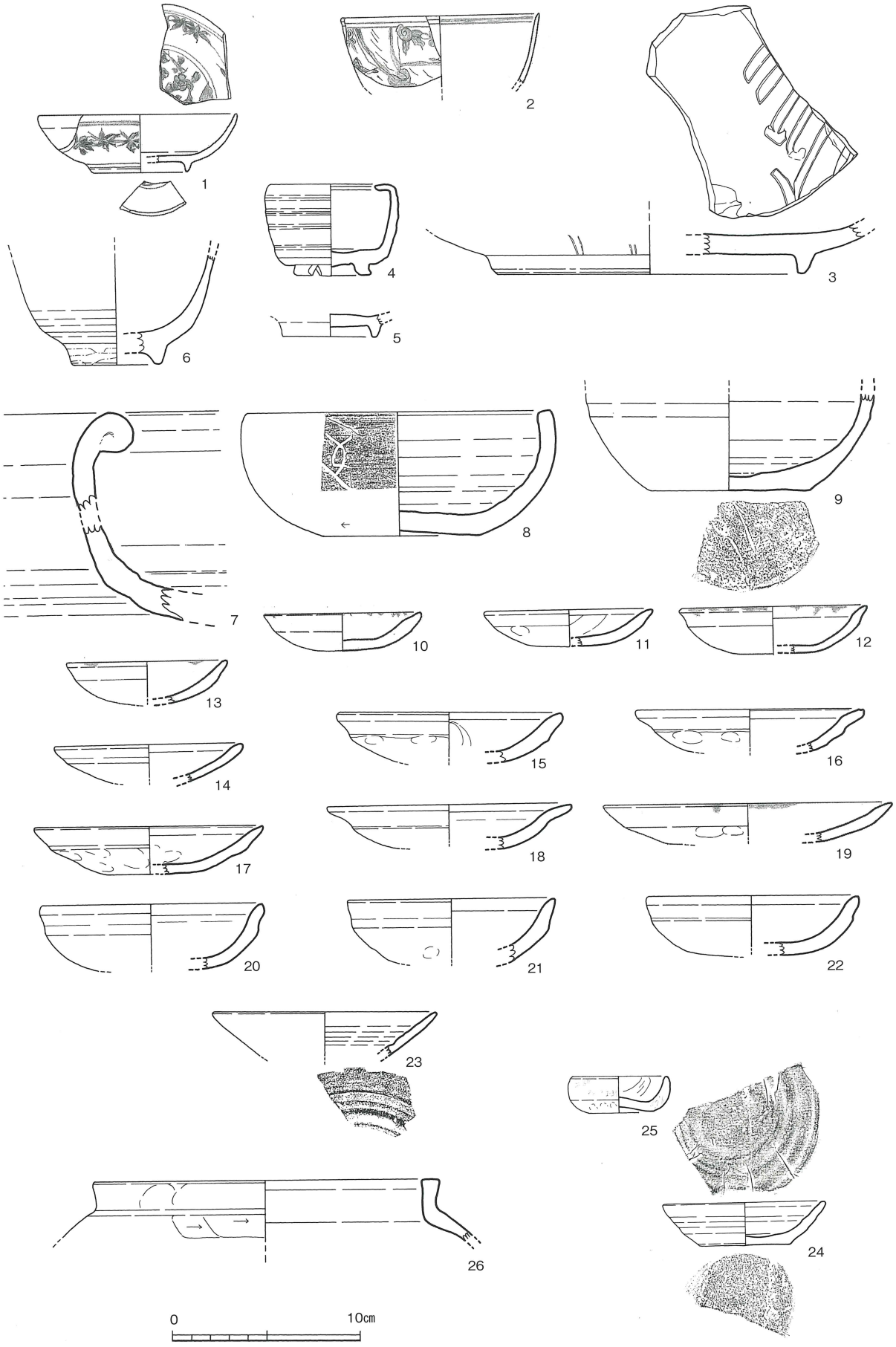
SX041　SX041はSX040の上面で確認された集石遺構で、上面を平坦に仕上げている。この場所を整地する際に配置されたものと考える。



第14図　SX041 実測図（1/20）



第16図　SX040 出土遺物実測図②（1/3）39(1/1)



第 15 図　SX040 出土遺物実測図①（1/3）

SP042　SX040に掘り込まれた柱穴状遺構である。同様な遺構は10数カ所検出されたが、この遺構からは第30図3に図示した龍泉窯系の印花文のある青磁の壺が出土している。

龍泉窯系

(2) 第2面

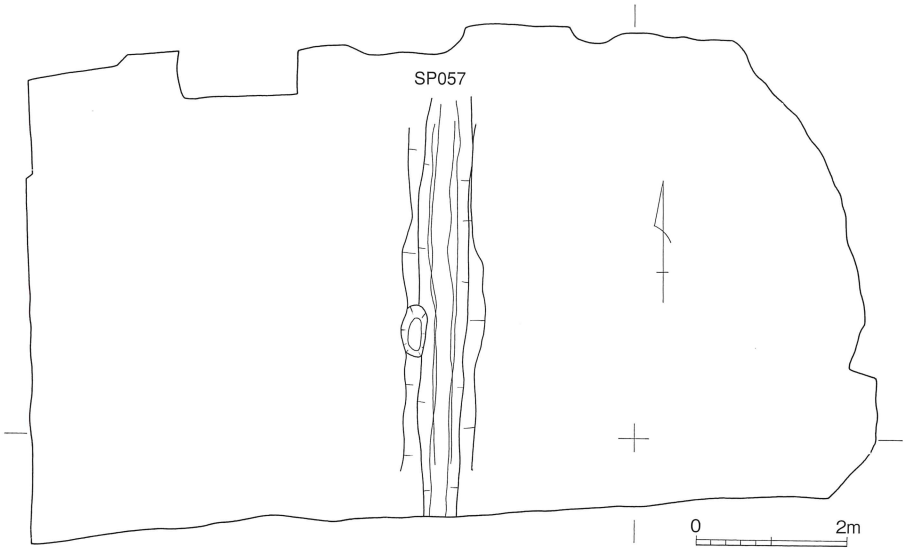
第2面で確認されたのは第13図の土層断面で観察されるように第1面のSD033・034と同じ位置に掘り込まれていた溝状遺構で、第2南北街路の側溝と考えられる。しかし、上面にSX040が形成されており、時期は天正14年（1586）以前と想定する。

SD057　SD057は深さ約50cmで、出土遺物は第31図1の京都系土師器の皿と2の備前焼の鉢が出土している。

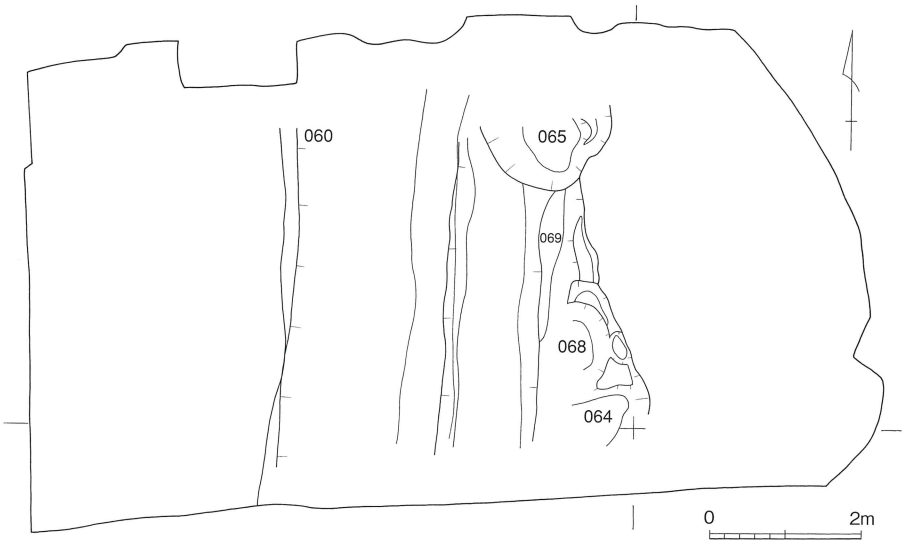
(3) 第3面

第3面は土層断面図と平面観察で確認された遺構である。時期は第2南北街路の最終段階の整備面より下位で、その西側側溝であるSD057より古い。しかし、16世紀後葉に整備が始まる第2南北街路より新しい時期である。この時期の遺構は以下のとおりである。

SK063　SK063は第13図の土層観察で確認された遺構である。出土遺物は第35図1～17に図示したが、京都系土師器とロクロ目土師器が出土している。



第 17 図　府内町跡第 51 次調査北部地区第２面遺構配置図（1/100）



第 18 図　府内町跡第 51 次調査北部地区第３面遺構配置図（1/100）

SK064　SK064は土層観察ではSK063より古い。しかし、第2南北街路を整備する途中に掘り込まれた遺構であり、第31図18～30に図示した京都系土師器が出土している。

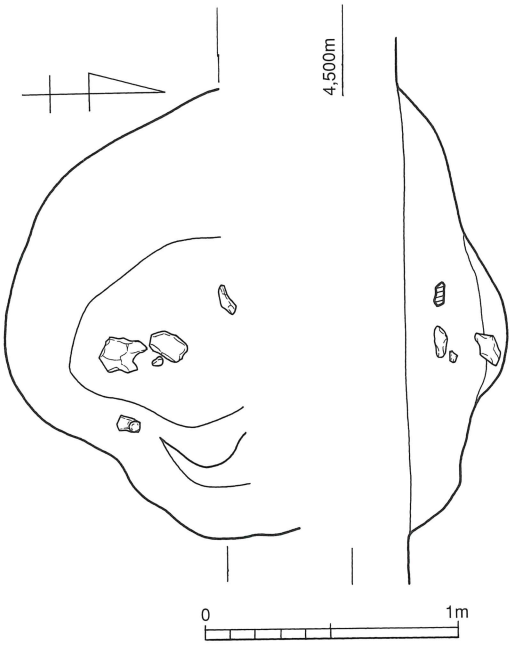
SK065　第19図に図示したSK065は調査区の北側で検出された土坑である。主要な出土遺物は第31図21に図示した京都系土師器の皿が出土している。

(4)　第4面

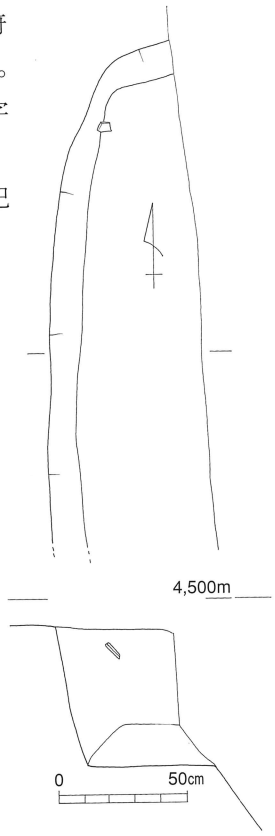
第4面は調査区中央で検出された断面V字の区画性の強い溝である。規模は幅4.5m、深さ約2.5mで、位置的には大友館の東側を区切る場所にあたる。この溝の北側の延長は府内町跡第52次調査で、南側の延長は第51次調査南部地区で検出されている。しかし付図3－2～3－4に見るように、南部地区では断面形態が深いU字形になり、形態や規模が異なる。

時期は、京都系土師器の皿や在地化した坏が出土することから、16世紀後葉と考える。

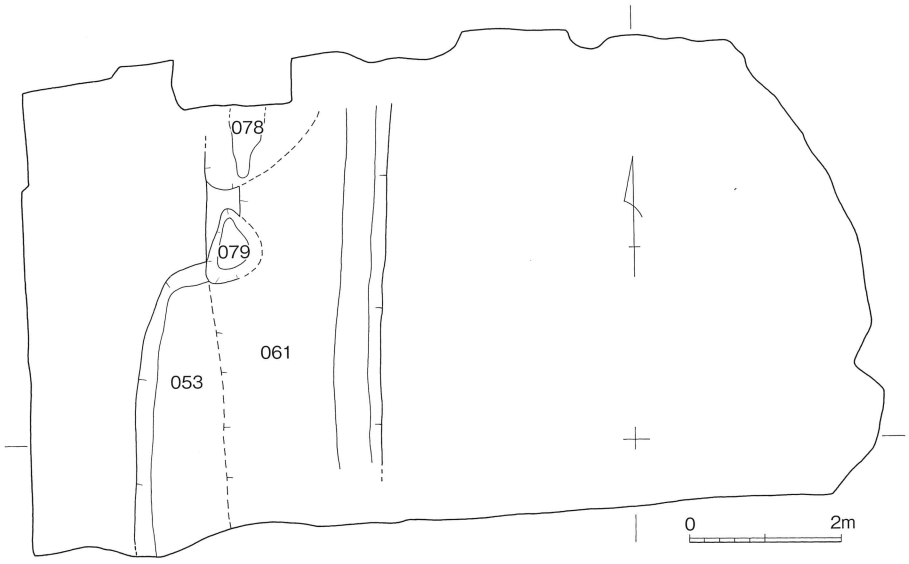
以上、第1面から第4面は16世紀後葉から末葉にかけて連続的に掘りこまれた遺構であることが、第13図の土層観察や出土遺物から判断できる。



第19図　SK065実測図



第20図　SK053実測図（1/30）



第21図　府内町跡第51次調査北部地区第4面遺構配置図（1/100）

(5) 第５面

第5面で検出された遺構は、第1～4面の遺構を掘削を終了後、地山面である明褐色土で検出されたものである。このため、16世紀以前を中心とするものの、一部はこの面で検出された16世紀代の遺構も含まれる。

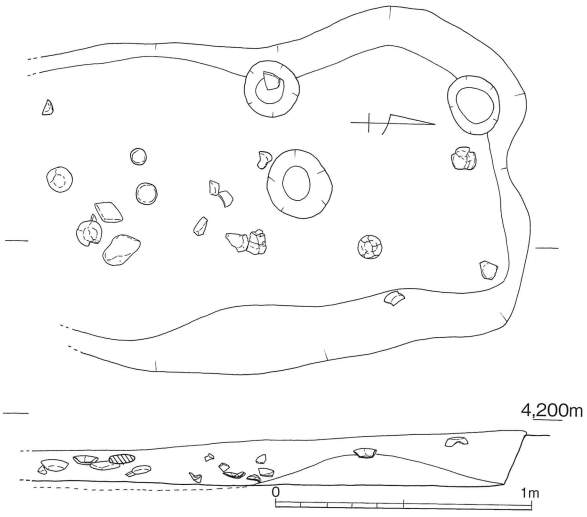
SK036　SK036は第2南北街路の発掘調査を終了後に、下面で検出された土坑である。南側が掘削されているが、南北に主軸を取り、2m以上あり、東西は約1.3mである。床面は平坦でないが、深さは約20cmである。

出土遺物は第26・28図の1～21に図示した在地系土師器が廃棄された状態でまとまって出土している。第26図1・2・14は口径8cm前後の在地系土師器の皿である。3・4・17は口径に対し糸切り底の底径が半分の椀形をした在地系土師器である。13も口縁部を欠くがその可能性がある。5～12・15・16・18～20は坏であるが、口縁部の形態は、5は先端が外反しながら尖る。また、6・8・12・15・19の口縁部は直線的に延び外傾する。さらに、7・10・11・16は口縁部の中位が肥厚し、最大厚となる形態である。そして、18・20は底部近くの器壁が厚く、口縁端部にかけて急に尖るように延びる。21は球形の土玉で、中央部に焼成前の穿孔があり、片方に溝状の窪みを形成している17.2gの遺物である。土錘と考える。

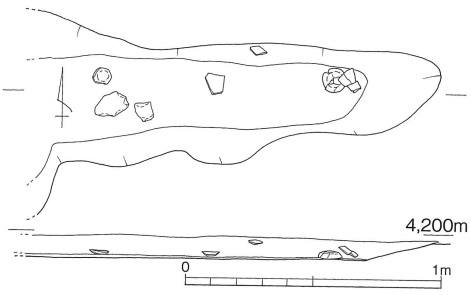
土玉

土錘

SK036の時期は椀形の在地系土師器や口縁部の中位の器壁が厚くなる坏を含むことから14世紀前半と考える。

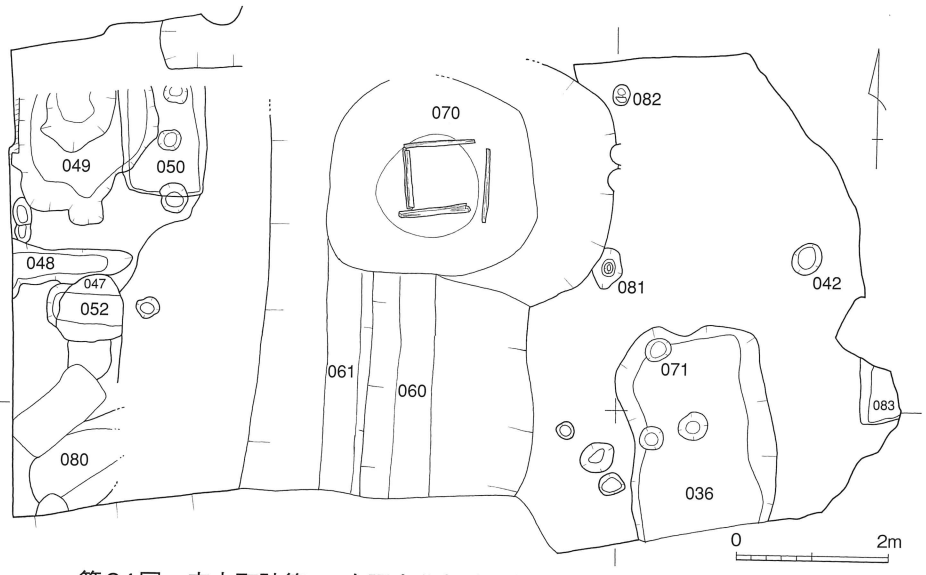


第22図　SK036実測図（1/30）



第23図　SK048実測図（1/30）

SK047　SK047はSX040を掘削後に検出された土坑で、第29図に図示したように、SK052の上面に皿上に掘り込まれたものと想定される。遺構の形状は不明であるが、第30図4の遺物が出土している。この土器は在地系土師質土器で、底部には板目の圧痕がつく。14世紀代の遺構と考える。



第24図　府内町跡第51次調査北部地区第5面遺構配置図（1/100）

SK048　SK048もSX040を掘削後に検出された遺構で、第23図に図示した。SK047の北側で検出された遺構で、西側に向かって溝状に延びる。規模は幅約40cm、深さ10cmである。

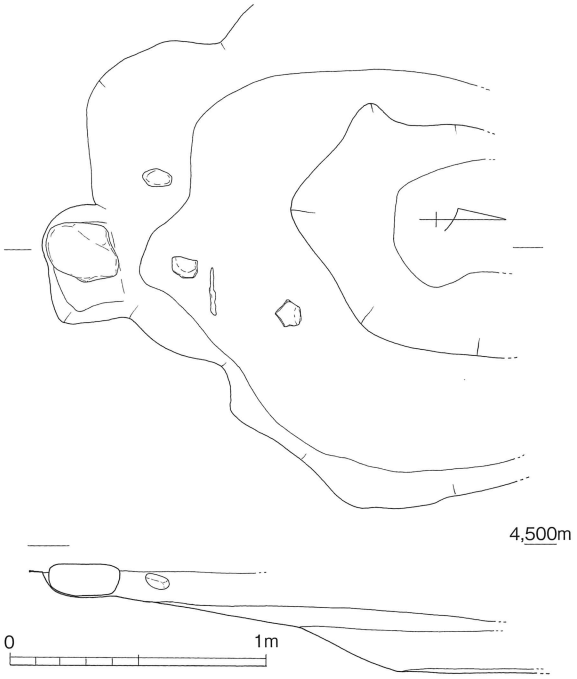
遺構内から出土した主要遺物は第30図8～10に図示した。8は陶磁器製の人物像の頭部資料である。内面を観察すると顔面と後頭部を型造りし貼り合わせた痕跡が残る。9は糸切り底の在地系土師器の皿である。10は底部中央に穿孔のある在地系土師器の皿に脚が付く器形で、燭台の可能性を考える。

陶磁器人物像

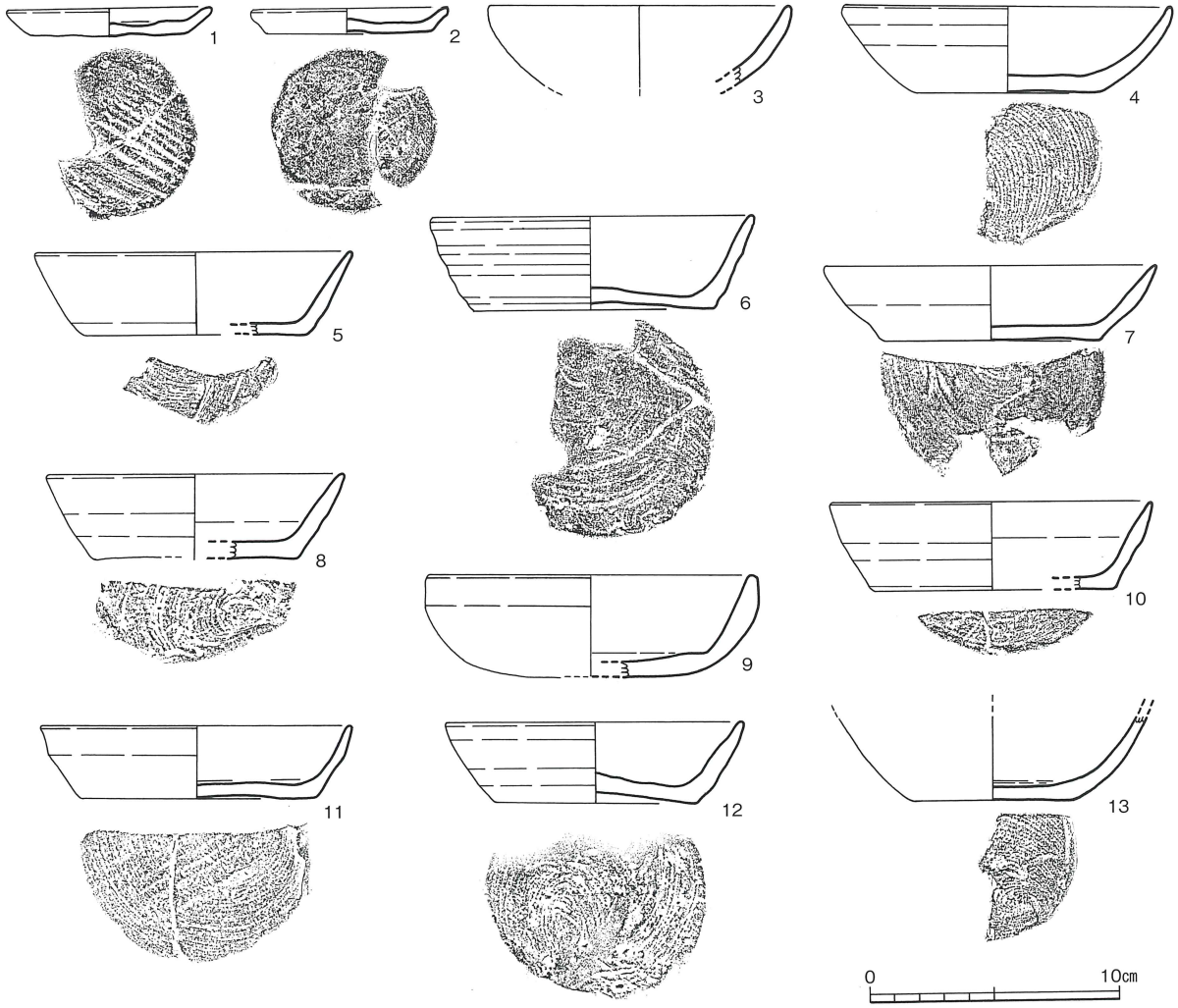
燭台

時期は在地系土師器が出土していることから14世紀代と考える。

SK049　第25図に図示したSK049もSX040を掘削後に調査区の北端部で検出された遺構である。確認できた遺構の規模は東西・南北ともに2m以上あり、北に向かって延びている。内



第25図　SK049出土遺物実測図（1/30）



第26図　SK036出土遺物実測図（1/3）

部は二段掘りになっており、最深部は約40cmである。遺構の南端部の縁では柱穴状遺構の内部に上面の平坦な河原石が検出された。柱穴内礎石と考えられ、別遺構である。

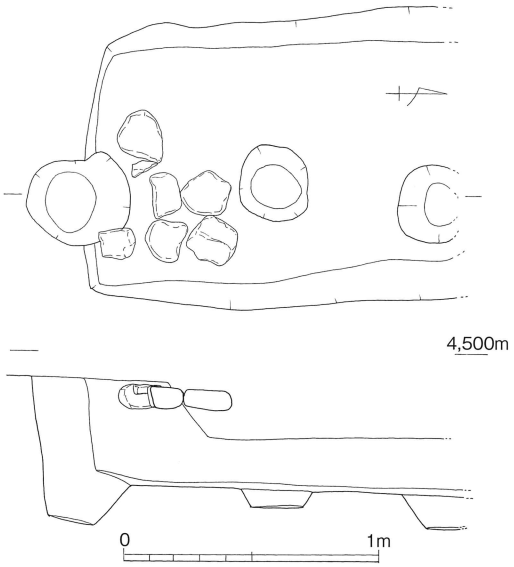
柱穴内礎石

主要な出土遺物は、第30図5～7に図示した。5は在地系土師器の皿、6はその坏である。2点とも糸切り底である。7は青銅製品で、断面は円形をしており、両端部に取っ手上の突起部が付く。

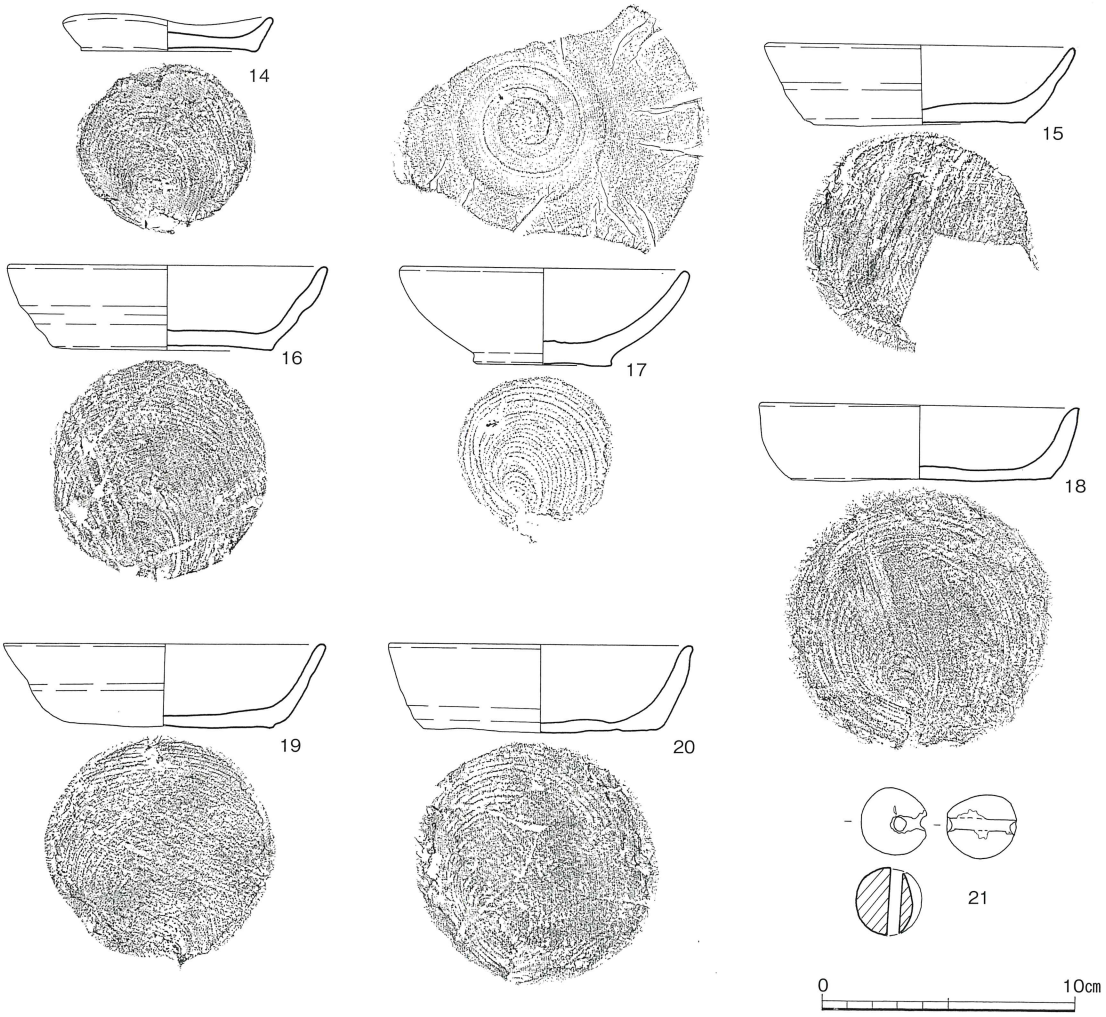
時期は在地系土師器の皿や坏が出土していることから14世紀代と考える。

SK050　第27図に図示したSK050はSK049の東側上面で切り合った状態で検出され、SK049より新しい。遺構の形態は南北に長い長方形をしており、北側は調査区外に延びている。確認できる規模は、南北は1.5m以上、東西は約1.1mで、深さは約40cmで、床面は平坦である。

この遺構の調査時に、３ヶ所の柱穴状遺構が検出されたが、この遺構とは別遺構と考える。また、遺構の上面で6個の上面が平坦な河原石を集中し



第 27 図　SK050 実測図（1/30）



第 28 図　SK036 出土遺物実測図（1/3）

上面を揃えて配置された遺構が検出されたが、土坑との関係は不明である。

遺構内からは第30図11・12に図示した在地系土師器が出土している。11は皿、12は坏であり、半分近くの残った破片である。12の坏は底部近くの器壁が厚く、口縁端部にかけて尖るように外傾する14世紀代の特徴を持つ。

SP051　第30図に図示した13は、第5面で検出された柱穴状遺構のであるSP051から出土した遺物である。在地系土師器の皿で、口縁端部は短く摘み出すように形成されている。

時期は、14世紀代と考える。

SK052　第29図に図示したSK052は東西に長い長方形をしている。東端はSK053に切られており規模は不明である。残された規模は東西2m以上、幅1.2mで、平坦な床面まで深さは25cmである。遺物の出土状態は、完形の16・17が床面から出土している。特に16は立てられた状態であった。そうした出土遺物は第30図14～18に図示している。

備前焼

14は備前焼の小型の徳利状の壷である。しかし、遺構上面での出土であり、遺構を覆っていたSX040から出土した破片と接合している。このため、SK052に伴わないと考える。15～17は在地系土器で、15は皿である。16・17は口径が13cmと11.8cmであるが、底径は約半分の6.5cm前後であり、

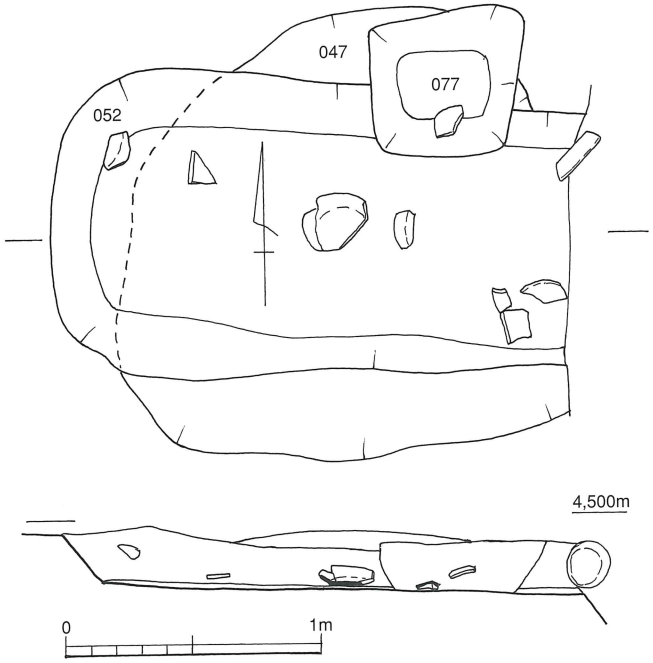
砥石

碗形をしている。18の砥石は結晶片岩製で半分を欠いている。

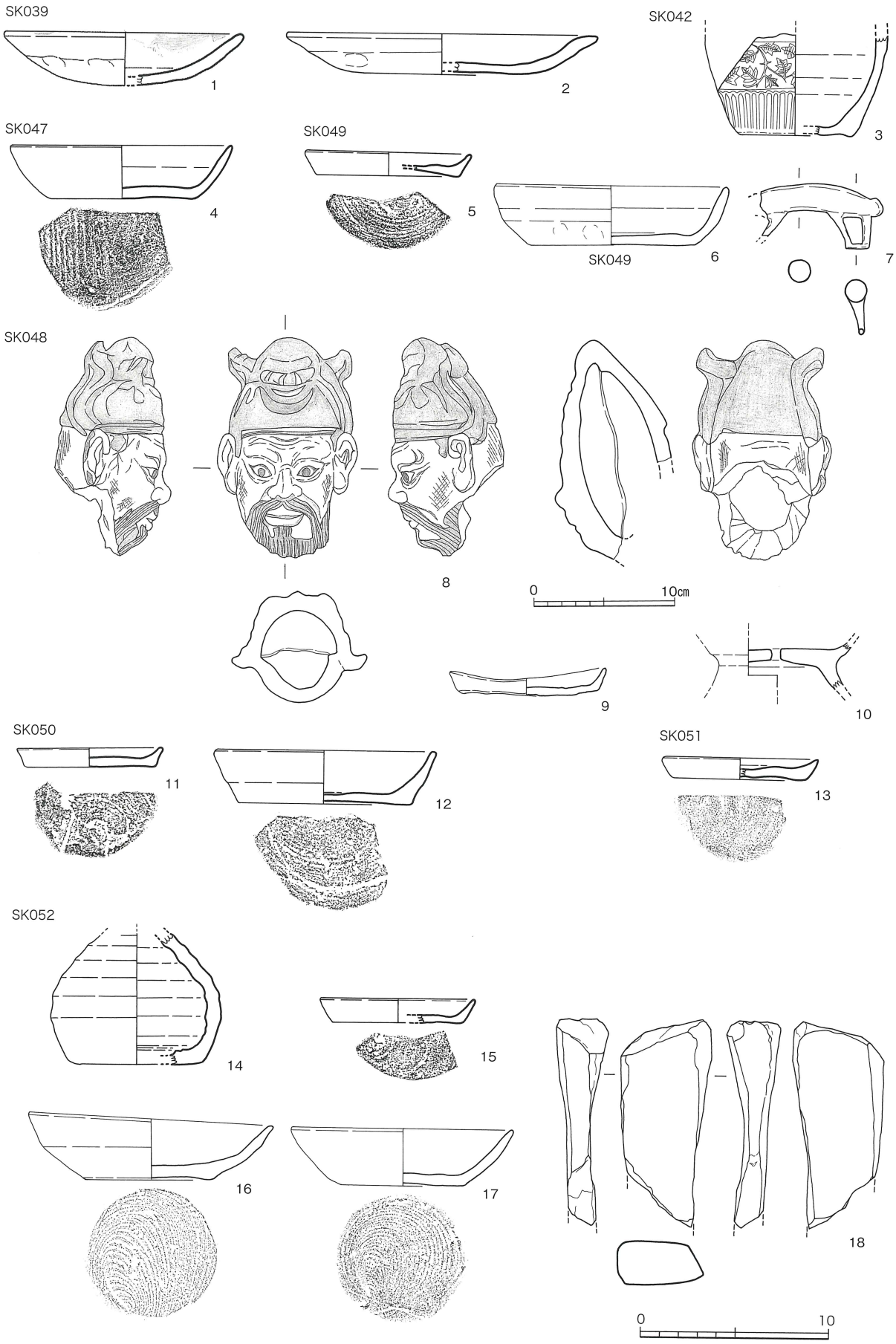
この遺構の時期は、15～17の時期であり、14世紀前葉と考える。

SK053　第20図に図示したSK053はSX060に東側を削られた東西に細長い遺構である。大半を削られているため、遺構の規模や形態を知ることは出来ないが、深さは40～50cmである。

時期は、出土遺物が小片であるが、糸切り底や口縁部の形態から14世紀代と考えるが、第13図の土層断面を見ると、次に報告するSD061の掘削後に掘り込まれており、この地区で最も古い遺構と考える。



第29図　SK052実測図（1/30）



第30図　SK039・042・047・048・049・050・051・052出土遺物実測図（1/3）・8(1/2)

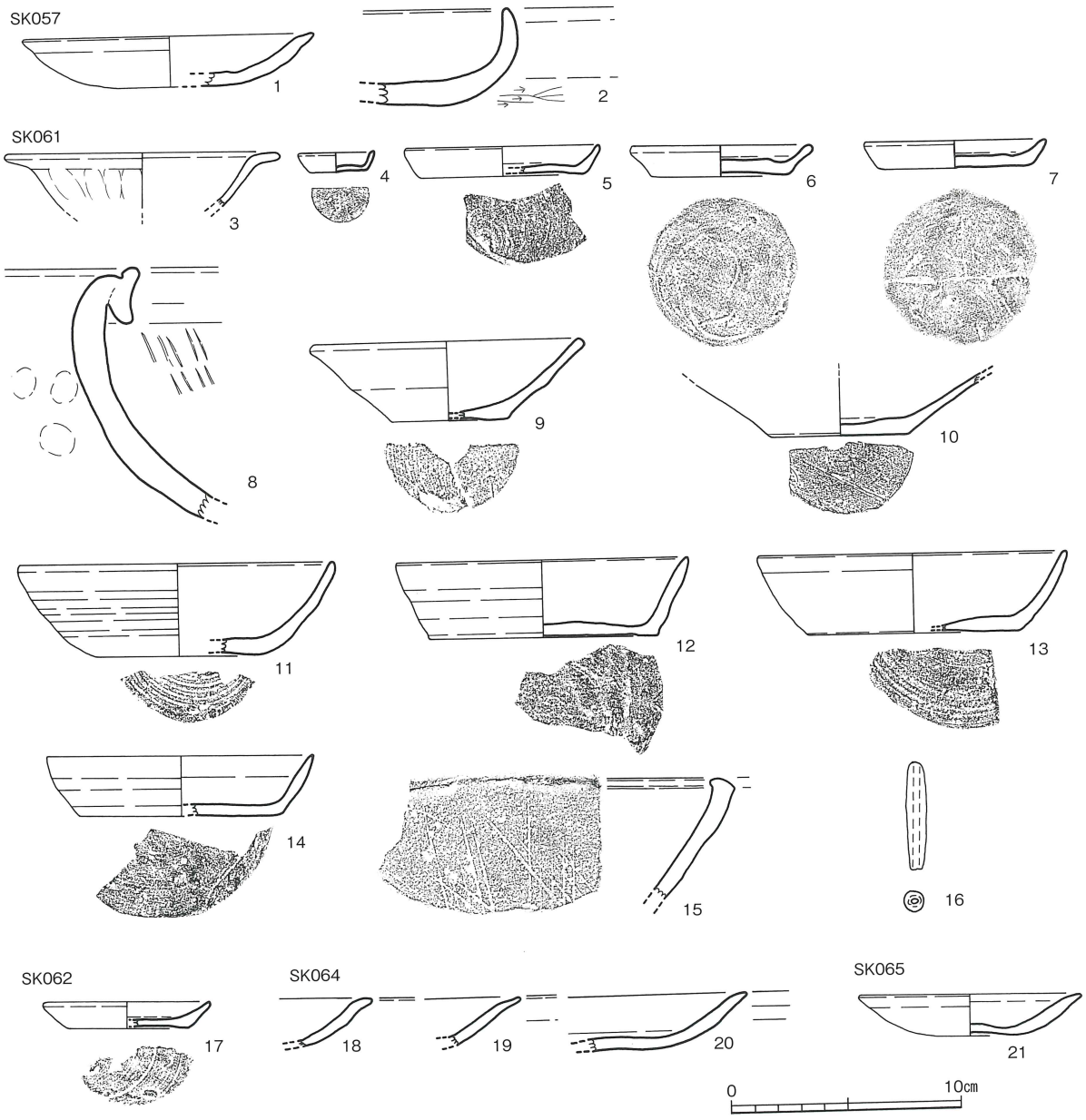
SD061　SD061は第24図の平面図と第13図の土層断面図で見ると、16世紀後葉のSD060に切られた断面Ｖ字の溝である。規模は深さが約2m、幅は約3mが想定され、SD060よりもひと回り小さい。

青磁の皿
常滑焼

第31図３～16には主要な出土遺物を図示した。3は龍泉窯系の青磁の皿である。4は口径が3.5cmの小型の皿で、瀬戸美濃系と考えられる。５～７は在地系土師器の皿である。8は常滑焼の壷の口縁部である。9は口縁部がハの字状に開く糸切り底の土師器の坏である。口径に比較すると底径が小さいが、口縁部が内湾しない。10は9と形態が類似するが、器壁が薄く大型で、胎土が白色をしており、内面に螺旋状のロクロ痕跡を残す。

11～14はいずれも破片であるが在地系土師器の坏である。11の口縁部は口縁部が内湾気味になる。12・14の口縁部は、中位の器壁が厚くなり、断面系が紡錘形にある。13は11ほどではないが、わずかに内湾気味になる。

15は口縁端部が肥厚する瓦質土器の擂鉢で、内面に5本を単位とした磨り目が交差して刻まれてい



第31図　SK057・061・062・064・065出土遺物実測図（1/3）

る。16は紡錘形をした3.8gの土錘である。

SD061の時期は、在地系土師器の形態や常滑焼の形態などから、14世紀代と考える。そうすると、大友館の東を区切る16世紀後葉のSD060と大きく位置が変わることなく、継承されている。

SK062　SK062は第13図の土層断面で確認された遺構で、第24図に図示した。土層断面図では、SK062の後とにSK080が掘り込まれている。出土遺物は第31図17に図示した在地系土師質土器の皿が出土しており、14世紀代と考える。

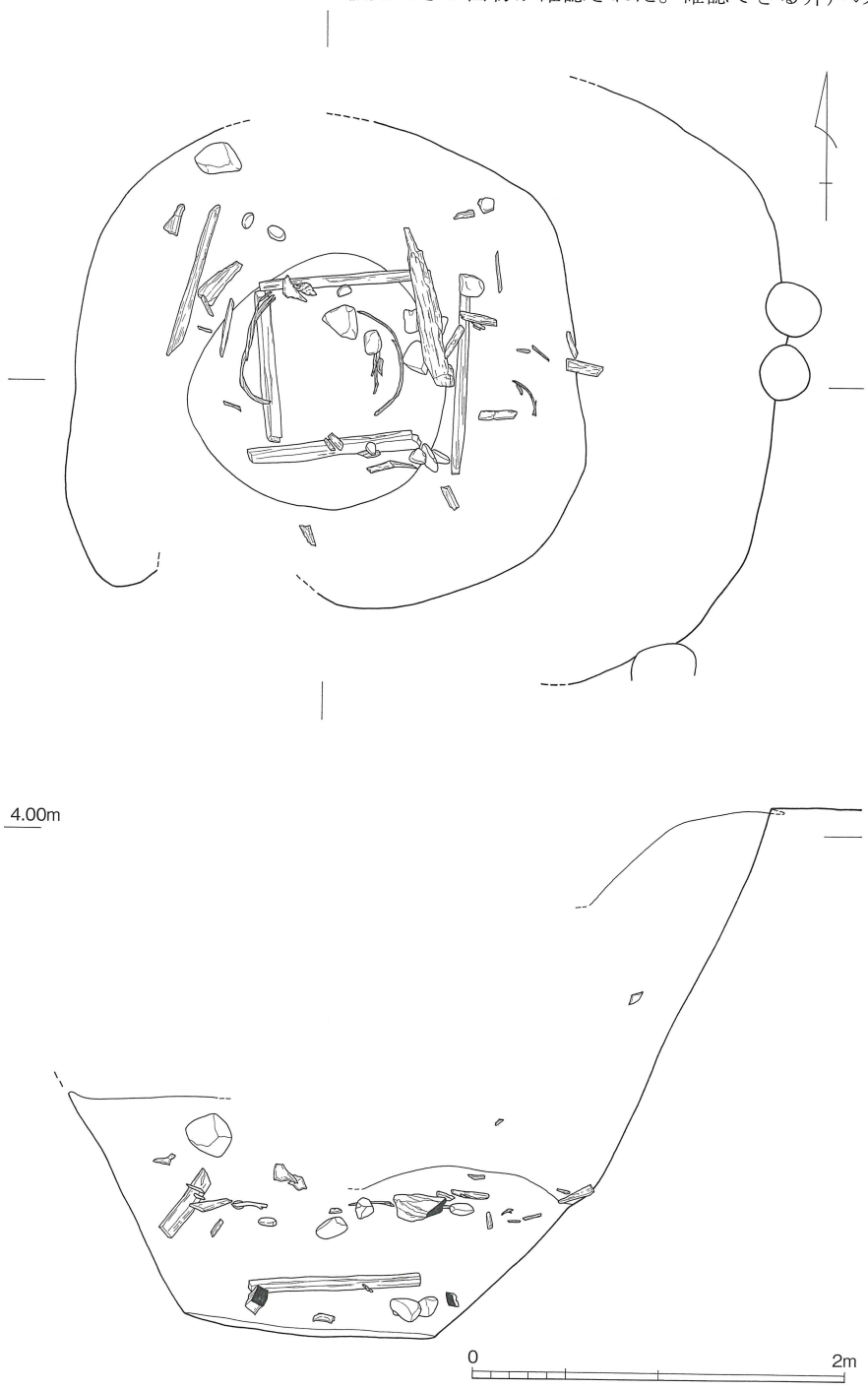
SE070　SE070はSD060の調査を終了後に確認された井戸である。第32図に示したように、井戸枠の最下部が辛うじて残っていた。それによると、井戸枠は横板で組まれ、内法は約90cmである。また、井戸枠内からは貯水部と考えられる直径約60cmに復元できる曲物が確認された。確認できる井戸の規模は、最深部が標高1.3mで、検出面からの深さは約3mである。

曲物

井戸内から出土した主要遺物は第36図18～28に図示した。18は在地系土師器であるが、焼成の悪い瓦質土器の可能性が強い。19～21は在地系土師器の皿で、22～24は坏である。22と24は同じ形態と思われるが、23は口径に比較すると器高が低い。25は瓦質土器の鉢である。26は大型のフイゴの破片である。27は滑石製の石鍋の底部である。28は「元豊通寶」の銭貨名の銅銭である。

フイゴ

SE070の時期は、14世紀代



第32図　SE070実測図（1/40）

と考えられる。が、

SP076　SP076は検出された柱穴状遺構である。出土遺物は第34図1に図示した口縁端部が肥厚し、輪花状に口縁部が特徴の奈良火鉢と考えられる。

奈良火鉢

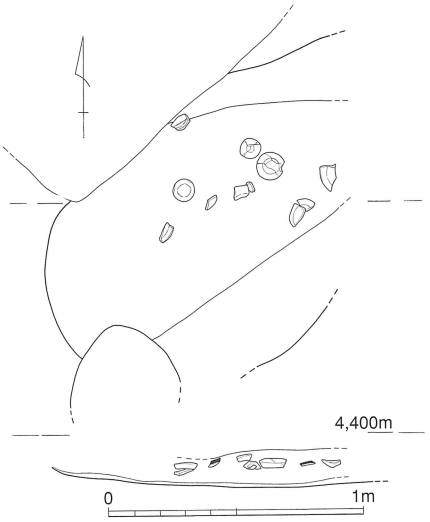
SK077　SK077は第29図に図示しているように、SK047・052と切りあう柱穴状遺構である。平面形は方形をしており、深さは約40cmである。遺構内からの出土遺物は、糸切り底の破片が出土していることから、14世紀代の遺構と考える。

SK080　SK080は第33図に図示したが、先に報告したSK062の上面に掘り込まれた土坑である。遺構は北側を近代の掘削坑、西側は調査区外、東側はSK053と重なるため、規模は床面のみ確認できる。

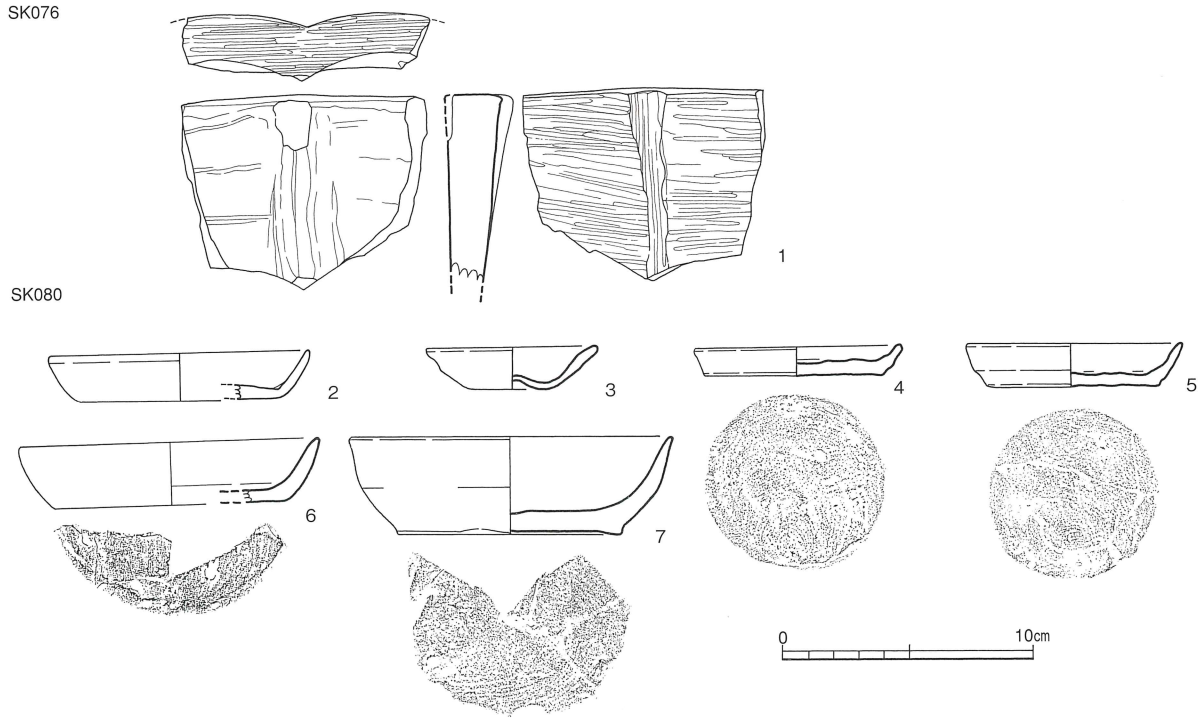
出土遺物は第34図2～7に図示した土師質土器である。2は底部の中央部のみ露胎の白磁の皿である。3は口径6.9cm、器高1.7mで、底部が窪む白色の非ロクロ系土師器で、京都系土師器のヘソ皿と考える。4～7は糸切り底の在地系土師器で、4・5は皿で、6・8は坏である。皿の口縁部は立ち上がりが明確で特に5は顕著である。坏の口縁部は底部近くの器壁が厚く、口縁端部にかけて尖るように立ち上がる。

京都系土師器
ヘソ皿

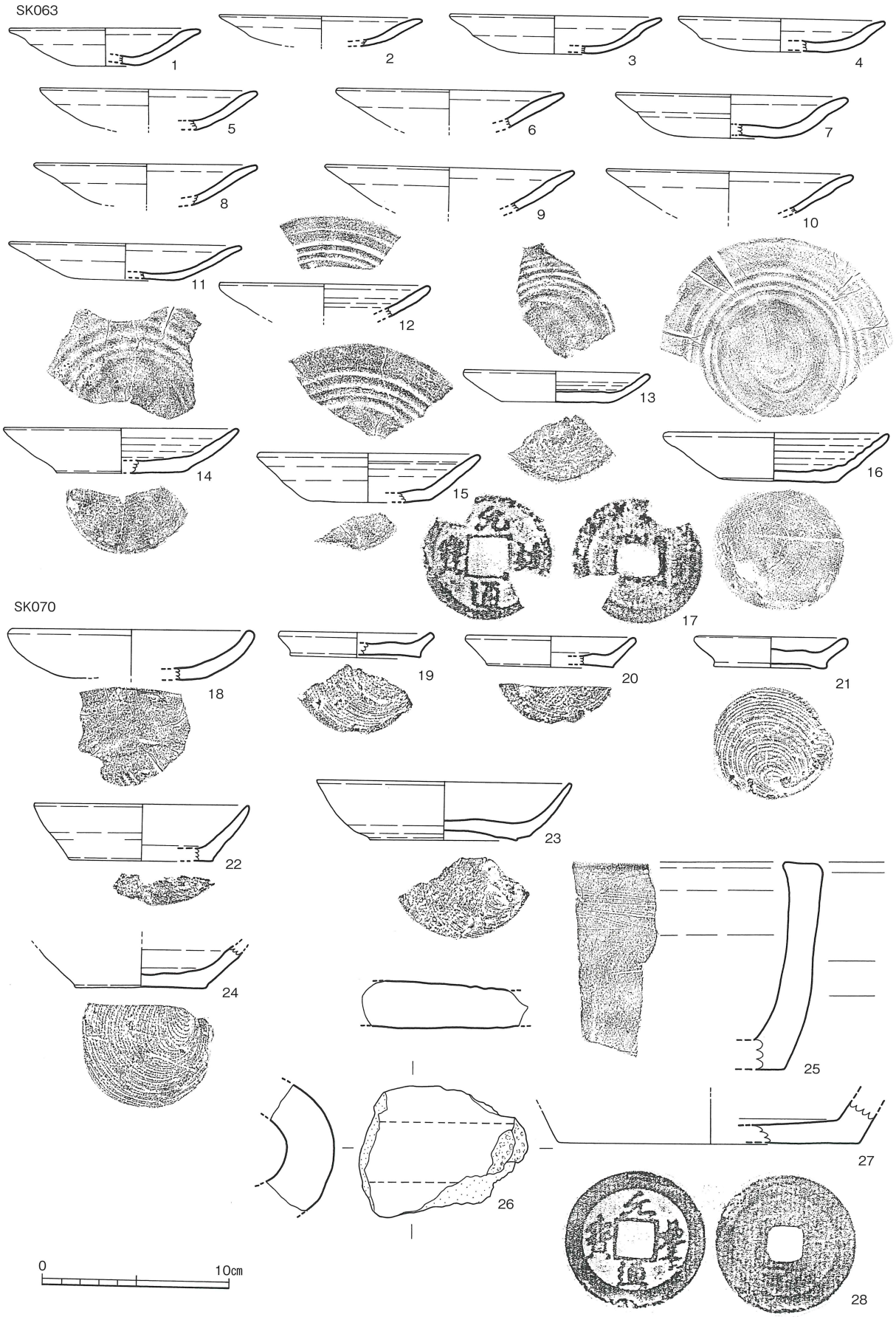
SK080の時期は、京都系土師器のヘソ皿の存在や、在地系土師器の形態などから14世紀中葉と考える。



第33図　SK080実測図（1/30）



第34図　SK076・080出土遺物実測図（1/3）



第35図　SK063・SK070出土遺物実測図（1/3）17・28(1/1)